

# 日本消防



- 第41回消防団幹部特別研修を開催
- 第14回消防団幹部候補中央特別研修を開催

□ 絵 平成26年度全国消防団員意見発表会、消防庁消防団等表彰及び消防庁消防団協力事業所表示証交付式 平成27年2月23日(月) 於 都市センターホテル  
 平成26年度全国消防団員意見発表会表彰式 平成27年2月23日(月) 於 都市センターホテル  
 第14回消防団幹部候補中央特別研修 於 日本消防会館

巻頭言 東日本大震災からの復旧・復興

～消防防災力の充実強化に向けて～ …………… (公財)茨城県消防協会 会長 葉梨 衛 …… 1

日消の動き 消防団の相互応援 …………… (公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 …… 3

第41回消防団幹部特別研修を開催 …………… (公財)日本消防協会 …… 4

第14回消防団幹部候補中央特別研修を開催 …………… (公財)日本消防協会 …… 6

第67回日本消防協会定例表彰名簿 …………… (公財)日本消防協会 …… 8

消防団防災学習・災害活動車両の活用事例 …………… (公財)日本消防協会 ……21

東西南北(愛知県)「地域の安心・安全のため、未来に向けて」 稲沢市消防団 団長 小沢 実 ……26

東西南北(岐阜県)関市のキャッチフレーズ「ときめき きらめき いきいき せきし」  
 …………… 関市消防団 団長 多田 壽夫 ……28

東西南北(秋田県)「新時代に沿った消防団運営へ」 …………… 羽後町消防団 団長 佐藤金一 ……30

シンフォニー(岡山県)「地域を支える一員に」 …………… 総社市消防団 女性部 班長 江口真弓 ……32

平成26年度少年消防クラブ指導者交流会を開催 …………… 少年消防クラブ活性化推進会議 ……34

第14回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクール審査結果  
 …………… 生活協同組合 全日本消防人共済会 ……36

平成27年度消防団幹部等海外消防事情調査の実施について …………… (公財)日本消防協会 ……38

都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議の開催と第22回女性消防操法大会の抽選会を実施  
 …………… (公財)日本消防協会・(生協)全日本消防人共済会 ……40

「消防団員入団促進キャンペーン」の実施 …………… 消防庁 地域防災室 ……41

一般公開のお知らせ  
 ……………消防庁 消防大学校・消防研究センター、日本消防検定協会、(一財)消防科学総合センター ……42

全国消防操法大会出場にあたり甲賀市消防団PRカーを制作 …………… 甲賀市消防団 ……43

うちの名物団員 …………… ……44

消防団の広場(静岡県)吉田町の安全安心のために …………… 吉田町消防団 団長 安田新吾 ……46

編集後記

表紙写真説明

北野天神社 創建：1654年(承応3年)

北野天神社は、菅原道真公をお祀りしたお社で昔から「天神さん」の愛称で親しまれ学園の神様として尊ばれてきました。

筆まつりは、毎年1月第3土曜、日曜日に大筆奉納行列が行われ、奉納書道展、筆作り実演及び筆供養の神事等が行われます。  
 (愛知県江南市)

平成26年度全国消防団員意見発表会、消防庁消防団等  
表彰及び消防庁消防団協力事業所表示証交付式  
平成27年2月23日（月） 於 都市センターホテル



全国消防団員意見発表会（表彰式）



**平成26年度第14回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)**  
平成27年2月4日～6日 於 日本消防会館



**平成26年度第14回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)**  
平成27年2月18日～20日 於 日本消防会館



## 東日本大震災からの復旧・復興 ～消防防災力の充実強化に向けて!～

(公財)茨城県消防協会 会長 葉梨 衛



茨城県は、日本列島のほぼ中央を占める関東地方の北東にあり、東は太平洋にのぞみ、北は福島県、西は栃木県に接し、南は利根川をもって千葉県、埼玉県に界しており、首都東京の中心から県南の取手市は40キロメートル、県都の水戸市は100キロメートルの圏内にあります。

最近の民間調査では、本県は都道府県の魅力度ランキング2年連続最下位という不名誉な調査結果となっていますが、本県の現在の人口は約293万人弱で全国第11位、1人あたりの県民所得は約304万円で第6位、可住地面積は約3,981平方キロメートルで第4位、耕地面積割合は28.4%で第1位等々、筑波山や八溝山等の山々、及び霞ヶ浦や海岸線約190キロメートルを有する風光明媚な土地柄に加え、前述の統計値のとおり農耕や居住に適した広潤な平地を有するなど、豊かな自然と温和で暮らしやすい環境に恵まれています。

さらに、つくばエクスプレスや平成23年に全線開通した北関東自動車道をはじめとする4本の高速道路、茨城港（日立港・常陸那珂港・大洗港を統合）や茨城空港など陸海空の広域交通ネットワークの整備が着々と進み、今後さらに大きく発展する可能性を有しています。

去る7月には、茨城空港近くに空のえき「そ・ら・ら」がオープンし、空港ターミナルビルとともに、空港の利用促進や地域のにぎわい拠点となっていますが、本県は産業拠点としても着実に発展し、「つくば国際戦略総合特区」の活用などによる最先端科学技術のつくば拠点、電気機械産業の日立拠点、原子力研究機関の東海拠点、そして素材産業の鹿島拠点の各拠点への産業の集積により、平成25

年は工業立地件数147件と全国第1位を誇るまで産業拠点は進化を続けています。

また、レンコン、メロン、等々の本県青果物は東京都中央卸売市場において10年連続全国第1位（平成16年～25年）のシェアを誇っており、その青果物などの県産品の品々をそろえた本県のアンテナショップ「茨城マルシェ」が、9月に東京銀座にてリニューアルオープンし本県の味が気軽に楽しめるコーナーが新設されるなど、本県の優れた農林水産物などの魅力を発信しているところです。

こうした魅力あふれる住みよい豊かなまちである本県の安全・安心を守るのは、44消防団23,959人と25消防本部4,369人の消防職員です。

東日本大震災では、本県の場合、本震では全44市町村が震度6強～5弱を観測し、そのわずか30分後に震度6強～5弱を40市町村で観測した最大余震が重ねて襲い、さらに最大波6.9メートル（推定）の津波が本県沿岸を襲ったことや、地震により広範囲に液状化現象が発生したこともあり、死者24名、行方不明者1名、震災関連死者41名、負傷者712名の人的被害に加え、住家被害が約21万棟にも達し、道路、港湾、上・下水道、学校など多くの施設が損壊したほか、この震災による避難者数は最大で77,285人にも上りました。

震災の翌年、平成24年5月には、つくば市等において発生した竜巻により14歳の少年が倒壊家屋の下敷きにより死亡したほか、負傷者42名、住家被害562棟の被害をもたらしました。

このような災害時において、消防職員はもとより、地域密着性・即時対応力・要因動員

力等の特性を遺憾なく発揮し災害防御活動されたのが消防団員です。東日本大震災やつくばの竜巻災害等においては、住民の避難誘導や安否確認、倒壊家屋における危険の除去、避難所での支援活動、さらには防犯を兼ねた夜間巡回による警戒等、多岐にわたる応急対策活動が行われたところです。

今後も、発生が懸念されている首都圏直下地震等のあらゆる災害・事故に、東日本大震災の教訓をいかしつつ対処するためには、消防防災力を充実・強化するとともに消防団を活性化しなければならないと考えております。

国においては、平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」という、これまでにない画期的な法律を成立させました。この法律では『消防団が将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在』と規定し、消防団員の確保や確保するための国や地方公共団体等の責務を明確にすることにより、地域防災力の充実強化を図り、もって住民の安全の確保に資することを目的とした法律です。

地域防災力の要である消防団の団員数は、全国的な傾向と同様に本県においても減少傾向にあります。本協会においては、消防防災技術の向上、消防団・職員の士気の高揚、及び消防団等の組織強化や消防防災思想の普及のため、消防ポンプ操法競技大会、女性消防団員活性化大会、消防団長等懇談会、消防大会、消防殉職者慰霊祭、新聞等による防火防災思想の広報等々、多岐にわたる事業を全県域で展開しており、県や市町村とともに消防団関係の事業を中心として地域防災力の充実強化に取り組んでいるところです。

とりわけ、消防ポンプ操法競技大会については、消防団員の士気の高揚と消防技術の向上を目的として毎年実施しており、平成27年の大会が第66回大会となります。日頃の操法訓練の成果を発揮するべく県内6地区で各消防団の熱い戦いが繰り広げられます。

また、全国大会の前年には、各地区の優勝チームによる選考会を実施し、全国大会出場チームを決定しています。ここ数年操法技術も年々向上し、全国大会における成績も、常

総市消防団（旧石下町消防団含む。）がポンプ車の部において平成18年度と22年度に準優勝、太子町消防団が平成20年度に、阿見町消防団が平成24年度に小型ポンプの部において優良賞を獲得するなど、全国に通用するような操法技術になりつつあります。

また、消防団の組織強化のための消防団の多様化方策として、女性の優しさやきめ細やかな配慮をいかして防火指導や応急手当の普及指導などの活躍が期待できる女性消防団員の加入について、平成19年度の本協会総会（理事会・評議員会）決議『概ね3年程度で県内全市町村に女性消防団を結成する』を受けて、女性消防団の活動事例等を紹介しながら、女性消防団の結成を促進し、併せて県内女性消防団員の交流を促すため、平成25年度まで計7回の「女性消防団結成促進大会」を開催してきましたが、女性団員がいる市町村も44市町村中38市町村まで伸びてきたことから、平成26年度から大会名称を「女性消防団員活性化大会」として開催しています。この大会においては、初年度開催の大会からご講演等で東京都赤羽消防団の小澤浩子副団長さんに様々なアドバイスを頂戴しており、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

さらに、消防団の組織強化のためには、消防団の活性化は欠かせないところですので、毎年県と共催でテーマを決め、各地区毎に消防団長、消防長及び市町村消防主管課長等との懇談会を実施し、平成25年度と26年度の懇談会においては、前述の法律をメインテーマとし、法律の内容を浸透させるとともに関係機関で情報を共有しているところです。

本協会は以上のような取組を実施しているところですが、本県の消防防災力の充実強化には、県や市町村の消防防災施策を補完する本協会自体の組織体制の強化、そして県、市町村及び本協会、さらには国や日本消防協会を含めての連携・協力による消防防災施策の実施が不可欠であると、私は考えており、今後とも伝統ある茨城消防の精神を守り、消防防災力の充実強化による本県の安全・安心を守るため、より一層尽力する覚悟です。

# 「消防団の相互応援」

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

東日本大震災の時、緊急消防援助隊の応援出動が大きく取り上げられるなか、消防団員からも応援に行きたいという声があがってきました。しかし、水、食料、燃料などの基礎的な物資がなく受入れ体制がないなどの理由で多くは実現できませんでした。その時、もうひとつ、スムーズに応援出動を実施し、また万が一公務災害があってもすぐ必要な措置がとられるようにするためには、相互応援協定を締結しておくことが望ましいと考えられましたので、翌年、日消地震等防災対策委員会秋田治夫委員長（大阪府協会長）のお名前で全国に応援協定の締結を要請しました。

あれから3年、どうなったかと思ひながら、その後の状況を全国各県に照会しました。その結果、全国殆どの県で、県下全域にわたり、あるいは、県内各ブロック単位で応援協定を締結していることがわかりました。さらに殆どの県で、隣接県との間でも応援協定を締結しています。さすが消防団です。

協定の内容は、全国かなり共通しているようで、要は出動手当などの通常経費はお互い様ということで応援側が負担し、特に異例の多額の経費が生じた時は受援側が負担するとしながら、必要に応じて協議するというようにしているようです。

応援出動というと一般の皆さんは緊急消防援助隊を思い浮かべますが、消防団の応援はこれとは違ったプラスの特徴があると思います。まず、近隣地域からの出動ということで、一般的には移動時間が少なく、被災地の地理なども相当よく知っていて、地理案内などなくても動けます。また、緊急消防援助隊が出動しないケースでも、山火事、水害などで消防団の応援が有効となる場合があります。

応援出動に当たってはせめて3日分位の水、食料、燃料などの基礎的な物資は携行できるようにしておかなければならないでしょう。これは、災害発生時も役に立ちます。こうして、消防団がたとえ日帰りでも交代で応援出動できるようにしておけば被災地は大いに助かるでしょう。

消防団がこのような面でも常備消防とは一味違った活動をすることができるということは、できるだけ多くの人にも知ってもらいたいものです。これは、消防団の評価を一層高めることになります。

# 第41回消防団幹部特別研修を開催

(公財)日本消防協会

平成27年1月13日（火）から16日（金）までの4日間、日本消防会館において、各都道府県の消防団長及び副団長の中から推薦された46名が出席し、「第41回消防団幹部特別研修」を開催しました。

開講式で当協会秋本会長、坂本消防庁長官のご挨拶をいただいた後、香川県観音寺市消防団大西団長の気力の充実した宣誓により研修がスタートしました。

研修では、秋本会長の「講話」、そして消防庁危機管理センターで受講した「消防行政」「防災対策」により、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」制定後の最新の消防行政の動向、施策について学びました。

また「消防団実務」、「火災防ぎょ」、「惨事ストレス対策」、土砂災害の経験に基づく「消防団活動事例」や災害情報の有効な利用を図るための「災害情報」、災害活動の向上を目的とした図上訓練の実施方法等を紹介した「危機管理」など、様々な内容の講義を受講し、消防団幹部として必要な知識を得ることができました。

さらに、「東京消防庁第二消防方面本部消防救助機動部隊（通称：ハイパーレスキュー）」に出向き、視察研修を実施し、現役の隊員から大規模災害等で使用する特殊車両や救助活動用資機材等を実物に触れながら説明を受けることができ、今後ますます重要になる消防団による救助活動の知見を広げることができました。

研修の最終日には、研修期間中を通して6班に分かれて活発に討議してきた課題について班ごとに発表を行い、全体で問題意識の共有を図り、その問題への対応や最新の取り組みについて意見交換を行いました。

短い期間の中で、充実した地域を越えた交流の図られた大変有意義な研修となりました。



大西総代による「宣誓」



課題研究討議の様子



品川副総代による修了証及び記章の授与



**【課題研究討議のテーマ】**

- ・消防団を中核とした地域防災力の充実強化の具体的方策について
- ・大規模災害時における消防団本部の運営について
- ・大規模災害時における現場活動の問題点と団員の安全対策について
- ・消防団員の確保対策について

**第41回消防団幹部特別研修 日程表**

1日目【平成27年1月13日(火)】

時 間	時間数	区 分・科目	摘 要・講 師
12:00～13:00	60	受 付	5階大会議室
13:00～13:20	20	開講式リハーサル	事務局
13:25～14:00	35	開講式・記念撮影	5階大会議室
14:10～14:40	30	オリエンテーション	事務局
14:40～15:30	50	会長講話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
15:40～17:00	80	課題研究討議	日本消防協会 業務部担当

2日目【平成27年1月14日(水)】

時 間	時間数	科 目	講 師
9:00～9:20	20	視 察 消防庁危機管理センター	
9:20～10:00	40	消防行政	消防庁 国民保護・防災部長 室田 哲男 講師
10:10～11:00	50	防災対策	消防庁 地域防災室長 河合 宏一 講師
11:00～11:20	20	移 動(消防庁～日消)	
11:20～12:10	50	課題研究討議	日本消防協会 業務部担当
12:10～13:00	50	昼 食	
13:00～13:50	150	危機管理	Blog防災危機管理トレーニング 主宰 日野宗門 講師
14:00～14:50			
15:00～15:50			
16:00～16:50	50	火災防ぎよ	東京消防庁 警防部副参事 木下 修 講師

3日目【平成27年1月15日(木)】

時 間	時間数	科 目	講 師
9:00～9:50	50	災害情報学	静岡大学防災総合センター 牛山 素行 講師
10:00～11:10	70	惨事ストレス対策	筑波大学大学院 人間総合科学研究班 松井 豊 講師
11:20～12:10	50	消防団実務	東京消防庁 消防団課長 佐藤 俊夫 講師
12:10～13:00	50	昼 食	
13:00～13:50	50	日本の救急医療の問題点	聖路加国際病院 理事長 日野原 重明 講師
14:30～17:00	150	視 察 東京消防庁第二消防方面本部消防救助機動部隊	

4日目【平成27年1月16日(金)】

時 間	時間数	科 目	講 師
9:00～9:50	50	消防団活動事例「土砂災害」	東京都 大島町消防本部 次長 羽根 高明 講師
10:00～12:00	120	課題研究発表	消防庁 消防団専門官 佐藤 敦 講師
12:00～12:40	40	昼 食	
12:40～12:55	15	閉講式リハーサル等	事務局
13:00～13:30	30	閉講式	5階大会議室
13:30～		解 散	

# 第14回消防団幹部候補中央特別研修を開催

(公財)日本消防協会

日本消防会館において、第14回消防団幹部候補中央特別研修を男性消防団員の部は2月4日（水）から6日（金）まで、また女性消防団員の部は2月18日（水）から20日（金）までのそれぞれ3日間にわたり開催しました。

この研修は、将来消防団の幹部として活躍が期待される団員に対し研修を実施するもので、全国から総勢217名（男性消防団員の部129名、女性消防団員の部88名）が参加しました。

今回は東京都大島町、土砂災害の被災地消防団の活動事例紹介、災害情報と対策、消防団を中核とした地域防災力の充実強化についての講義のほか、池袋都民防災教育センター（女性消防団員の部）を視察しました。また、テーマごとに別れて実施した課題討議では、各地域の実情や課題などについて活発な意見交換が行われるなど、有意義な研修となりました。

受講者からは、「参加した全国各地の消防団員と活動内容や取組みについて意見を交わすことができ大変参考になった」、「講義で得た知識を今後の活動に役立てたい」などの感想が寄せられました。



男性消防団員の部



女性消防団員の部



## 第14回消防団幹部候補中央特別研修 講義科目

### 【男性の部】

内 容	講 師
講 話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
消防団を中核とした 地域防災力の充実強化	消防庁 地域防災室長 河合 宏一
災害情報	静岡大学防災総合センター 教授 牛山 素行
危機管理	Blog防災・危機管理トレーニング 主宰 日野 宗門
防災から減災へ	NHK解説委員室 解説主幹 山崎 登
活動事例(土砂災害)	東京都大島町消防本部 次長 羽根 高明
課題討議発表・講評	消防庁 対策官兼消防団専門官 佐藤 敦
課題討議テーマ ・若年層の団員確保対策について ・サラリーマン化が進む中での効果的な活動方策について ・消防団の訓練のあり方について ・消防団活動の問題点と解決策について ・消防団を中核とした地域防災力の向上について	

### 【女性の部】

内 容	講 師
講 話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
池袋都民防災教育センター視察	
これからの時代における 女性消防団員の役割	東京防災救急協会 講習指導担当部長 谷口 由美子
消防団を中核とした 地域防災力の充実強化	消防庁 地域防災室長 河合 宏一
災害国日本を生き抜く知恵を学ぶ	リスクウォッチ リスクコミュニケーター 長谷川 祐子
女性団員の活動のあり方 (各国の状況を交えて)	東京都赤羽消防団 副団長 小澤 浩子
防災から減災へ	NHK解説委員室 解説主幹 山崎 登
課題討議発表・講評	消防庁 対策官兼消防団専門官 佐藤 敦
課題討議テーマ ・女性消防団員の役割について ・女性消防団員の確保対策について ・女性消防団員による新たな消防団活動の展開について ・消防団活動の問題点と解決策について ・消防団を中核とした地域防災力の向上について	

# 第67回日本消防協会定例表彰名簿

(公財)日本消防協会

- 1 日時 平成27年3月10日(火)  
午後1時 開式
- 2 場所 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号  
日本消防会館 ニッショーホール



## 3 式次第

- (1) 開 式
- (2) 国歌斉唱
- (3) 消防殉職者に対する黙祷
- (4) 式 辞
- (5) 表 彰
  - ・特別表彰「まとい」…………… 10団
  - ・特別功労章…………… 10名
  - ・表彰旗…………… 40団
  - ・竿頭綬…………… 90団
  - ・功績章…………… 958名
  - ・精積章…………… 2,283名
  - ・勤続章…………… 7,491名
  - ・優良婦人消防隊…………… 16隊
  - ・優良婦人消防隊員…………… 16名
  - ・永年勤続者表彰…………… 5名  
(都道府県消防協会等役職員)
- (6) 祝 辞
- (7) 受章者代表謝辞
- (8) 万歳三唱
- (9) 閉 式

第67回 日本消防協会定例表彰名簿

特別表彰まとい

10団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	北見地区消防組合常呂消防団
新潟県	新潟市消防団
千葉県	市原市消防団
石川県	かほく市消防団
兵庫県	福崎町消防団
和歌山県	橋本市消防団
鳥取県	米子市消防団
岡山県	津山市消防団
高知県	本山町消防団
長崎県	雲仙市消防団

特別功労章受章者

10名

都道府県名	役 職 名	氏 名
秋田県	秋田県消防協会会長 能代市消防団団長	中田 潤
神奈川県	神奈川県消防協会会長 横須賀市消防団団長	安田正命
福井県	福井県消防協会会長	藤田貞武
岐阜県	岐阜県消防協会会長 掛斐川町消防団団長	橋本利弘
和歌山県	和歌山県消防協会会長 田辺市消防団団長	谷中幹夫
山口県	山口県消防協会会長 岩国市消防団名誉団長	森口勝征
香川県	香川県消防協会会長 観音寺市消防団団長	大西光雄
高知県	高知県消防協会会長 高知市消防団団長	友村承蔵
佐賀県	佐賀県消防協会会長 大町町消防団団長	原田 守
沖縄県	沖縄県消防協会会長	松田 進

優良消防団 (表彰旗)

40団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	釧路北部消防事務組合鶴居消防団
〃	南十勝消防事務組合中札内消防団
〃	北十勝消防事務組合上士幌消防団
青森県	鯉ヶ沢町消防団
岩手県	山田町消防団
宮城県	蔵王町消防団
秋田県	秋田市消防団
山形県	寒河江市消防団
福島県	本宮市消防団
新潟県	加茂市消防団
東京都	成城消防団
神奈川県	川崎市中原消防団
群馬県	桐生市消防団
千葉県	香取広域市町村圏事務組合香取市消防団
茨城県	神栖市消防団
栃木県	さくら市消防団
山梨県	中央市消防団
長野県	駒ヶ根市消防団
福井県	嶺北消防組合坂井消防団
石川県	金沢市第二消防団
愛知県	名古屋市東桜消防団
〃	岡崎市竜谷消防団
岐阜県	大野町消防団
大阪府	松原市消防団
兵庫県	川西市消防団
奈良県	河合町消防団
滋賀県	米原市消防団
和歌山県	紀美野町消防団
鳥取県	北栄町消防団
島根県	松江市消防団
徳島県	勝浦町消防団
香川県	多度津町消防団
愛媛県	四国中央市消防団
高知県	室戸市消防団
長崎県	時津町消防団
福岡県	筑後市消防団
佐賀県	玄海町消防団
熊本県	多良木町消防団
宮崎県	諸塚村消防団
鹿児島県	西之表市消防団

優良消防団 (竿頭級)

90団

都道府県名	消 防 団 名
北海道	紋別地区消防組合興部消防団
岩手	滝沢市消防団
〃	平泉町消防団
〃	軽米町消防団
宮城	涌谷町消防団
〃	仙台市若林消防団
〃	富谷町消防団
秋田	大湯村消防団
〃	横手市増田消防団
〃	東成瀬村消防団
山形	天童市消防団
〃	上山市消防団
〃	東根市消防団
福島	小野町消防団
〃	喜多方市消防団
〃	富岡町消防団
新潟	胎内市消防団
〃	南魚沼市消防団
東京	玉川消防団
〃	荒川消防団
〃	国分寺市消防団
神奈川	横浜市西消防団
〃	横浜市磯子消防団
〃	横浜市戸塚消防団
群馬	榛東村消防団
〃	沼田市消防団
千葉	葉城市消防団
茨城	石岡市消防団
〃	取手市消防団
〃	阿見町消防団
栃木	日光市足尾消防団
〃	那珂川町消防団
〃	市貝町消防団
山梨	富士川町消防団
〃	甲州市消防団
〃	富士河口湖町消防団
長野	中川村消防団
〃	天龍村消防団
〃	滝村消防団
石川	能登町消防団
〃	小松市消防団
富山	黒部市消防団
〃	南砺市消防団
三重	津市消防団
〃	伊賀市消防団

愛知	名古屋消防団
〃	名古屋消防団
静岡	御殿場市消防団
岐阜	笠松町消防団
〃	瑞浪市消防団
〃	下呂市消防団
京都	京都市山科消防団
〃	京都市右京消防団
〃	宇治市消防団
大阪	八尾市消防団
〃	大東市消防団
兵庫	姫路市網干消防団
〃	西脇市消防団
〃	篠山市消防団
奈良	御杖村消防団
〃	黒滝村消防団
滋賀	草津市消防団
〃	多賀町消防団
和歌山	海南市消防団
〃	有田川町消防団
鳥根	大田市消防団
〃	大美郷町消防団
広島	江田島市消防団
徳島	阿南市消防団
〃	東みよし町消防団
香川	高松市消防団
〃	琴平町消防団
愛媛	新居浜市消防団
〃	砥部町消防団
〃	伊方町消防団
高知	大豊町消防団
〃	いの町消防団
長崎	松浦市消防団
福岡	岡垣町消防団
〃	大牟田市消防団
〃	赤村消防団
佐賀	吉野ヶ里町消防団
〃	みやき町消防団
〃	上峰町消防団
宮崎	小林市消防団
〃	綾町消防団
〃	川南町消防団
鹿児島	三十島村消防団
〃	つま町消防団

功績章受章者

志男晃則司之也治行次次広到明勉雄稔美  
 武光 勝武久哲正孝健智幸 英 貞 明 政 正 哲和元嘉鉄直佐公光善さと  
 巢井沼井田田邊村島沼藤沢山澤沼岡水 林崎井戸原上詰藤立藤岸藤澤口崎  
 鷺藤田小<sup>金</sup>吉酒豊渡野矢平伊黒小水柿笹清 小尾桜神萩井橋齋神後根須黒山岩  
 行二一修宏幸隆源満重弘明義弘美敏進男徳治也博一  
 博良光 武秀 英 清正英隆 義一 真一<sup>寿</sup> 康昌知陽

郎敏子 一 夫子治直代雄一 公子子稔彦司代男子夫史勝健繁靖也行也邦二 夫一江彦一明子郎裕巖一衛法也彦俊一務三文 一雅稔  
 竹正順 榮宣敏良芳美秀誠 道文 武隆春滝幸道享良 吉哲教和和精 康弥満明伸克祐敏 佳 正文明孝章 慎弘 秀照  
 瀬野藤 栗原谷林井崎田本山藤木鳥澤崎戸田屋井本井浦川澤俣藤川沼山 井卷林田木橋崎宮嶋水野上村木澤井島木木田 須林本  
 廣高佐 和<sup>東</sup>小笠 大小廣増須山檜須鈴長小小榎本形櫻山石三市矢川遠宮淺沖 金藤小増藤高壽二長清平井中鈴石藤中青鈴山 須林本  
 市秀夫一一夫正夫一行通之春美一 正人一一子 行雄司衛潤博夫仁男明美也榮一幸夫雄雄夫栄史浩行一宣久行人功均美敏児政央信紀一  
 源徳誠卯敬秀 郁真好 哲正文庄光直雄仁美<sup>代</sup> 克良仁浩 登喜 一英正和正俊敏達孝登茂<sup>美</sup> 一一永俊茂一勝和 克浩康一万義清浩

雄彰門雄一良一男一勉義修一 美博仁修昭郎行俊郎一昭彦一雄昭市志春一一夫彦豊功淳成子 郎雄二勉徳作司啓作伸明一嗣郎郎徳  
 和 重安伸誠誠徹祐 高 純 和 義 秀與正道利勇正一幸俊好真厚嘉純慎範勝 一美 奈 勝久英 正栄守善豊弘文真善晃圭忠  
 藤田藤藤木玉藤木川田松木山 田村合田岡谷藤橋賀原又南部木藤口越嶋上嵐川野藤藤藤藤場 田野竹浦藤野藤野泉木藤子藤藤山内  
 齊池佐齋佐児伊佐細塩小鈴奥 月木河多長玉加高芳笹川長阿青齋山細寺井五石金佐後齋齊大 安今大三佐菅齋菅今鈴佐増佐須影矢

廣隆市哲臣橋生孝昭喜善則卓生夫吉幸晴義実信男博苗 之一夫郎市男俊男利誠昭郎茂義次郎朗藏成弘則郎郎子 人子美一健昭  
 孝 徳文良泰吉英光一 宏一清利清武 義日出雅早 正正信勇健一 岩勝 政二 政清利敏善一孝勝俊一ふみ 尚た<sup>え</sup>咲兵 泰  
 鹿橋地村原藤木葉野澤垣橋橋野澤木葉地山戸尻向田原 橋林島藤野山木浦形藤城場野野原橋木葉村内野橋橋山 澤榎田田多浦  
 女高福中菅佐鈴千河瀧板高高昆熊鈴千菊上明澤日徳藤 高小八加吉畑鈴松尾佐結大今浅菅高佐々々々中山浅高高小 青富金太本三

一忠次行次己正一憲昭一雄志幸男郎丈隆志司夫治彦一朗治彰榮隆義一治廣幸子 一司雄貞堅人弘夫一春勝範徳幸博夫雄夫二子  
 愼 喜久<sup>久</sup>孝正政 輝 和幸熊武義壽新<sup>太</sup> 仁唯光誠將純哲健 良 政啓義 主由美子 利喜鐵敏 直章貞元信正克公辰 郁文幹正靖  
 原子中 岡木藤村濱田藤家尾部本山井浦中井島本林口藤 問谷原又測田 橋保 谷内田村浦中池橋田本田野谷藤山畑後上目藤  
 田金田岡濱村伊奥金坪佐大瀬伊松大松竹山吉西橋小坂佐原風南福鹿鰐成泉松久 熊小山箱濱梶畑菊高成岡榮中柳遠中中越三木佐

北海道  
 岩手  
 青森

司史吾也則之彦齊 武浩光幸昭博男仁壽子 登雄郎典和男一博彦直要子 博義五秀雄次方彦眞也彦生彦子 一之則一德也 利司  
勝貴眞直正克安 秀德利俊孝敏 京 久幸克文 孝俊春照 和 一弘裕好正義良明 和源泰好哲 健和勝統義美記 茂正

山上田岡永川谷 橋谷林田里中岡田井巳 口村上橋森村林井口場川井 木 田本西水田瀨見本 端 井武西藤花川 坂本浦  
鳥村松米栗久古前 丸西小里西山山米松辰 谷北井船石大小今山馬長岩 村西太森岡中清越柳毛鳥岡川向 鳥取 井武西藤花川 坂本浦

郎隆徹嗣學將明之次之正毅剛美 博周雄一隆次重博武志苗 博博夫雄之一正夫男弘弘雄司司透文志弘昭也彦浩男磨修守弘弘則也郎幸生  
光昌 浩 隆一博泰秀 由 正啓道義典 健早 芳 康辰貴雅 敏和進義隆 仁 利勝利広勝昭信哲和 直典正哲二伸睦

田本澤口本浪倉瀬田中野村崎村 井崎 村本関師中野田鳥 田田田郷野島林下田宮田原野本藤中木村谷井尾下尾田中崎崎田谷本津橋  
隅谷池田山川小白中田上桐尾下 大 阪 高河勝西山井寺田中原竹 兵 庫 探浅本上本細加平山長大堅松椿橋奥田佐三 中平松山西内田波宮戸曾松嶋大

久尚俊義行勝猛德 正之男則彦寿浩美規年久之誠環子資徳郎薫昭子 司夫雄司秋昭一尚久彰夫等久浩浩晃長徹彦夫隆彦る 明忠己典  
博俊正寿英敏 佳 育浩静將明明剛清博和浩浩 節敦正祿 光靖 銳巖康俊一昌功 寿 幸 安信幸 久 成定義安か 裕 克保

木上林藤田田木下 藤石田隅盤田川口山野山橋木田田藤中田澤藤上 合松田林下山藤口野 尾 垣村屋田森原古野塚山村 下村口木  
鈴井小佐吉池青竹 静 岡 後大吉大常大石川杉佐杉高鈴諸山近野藤西宇井 岐 阜 佐兼恩中山福後水大蒲今原西鈴岩山金野佐浅藤大奥 京 都 真川山鈴

一枝 男義豊義一 臣信治人夫信吉則一春生 夫美浩久二博徹紀久則広浩次子 種郎治弘清一行夫三雄美子博勉宏昭浩久也泰樹  
長花 壽一 武大良 美雅慎正一重久正正正弥 一卓芳政眞正 雄徳吉政正正美 長佳純正 憲眞利銀勝政幸俊 和憲孝知達匡英

山島 卷瀬口口木尾 橋寺邊田中田伯崎熊井石 部尾野藤中口形原村根古谷家 地口田 田川藤井松蘭井藤多部野立林山藤村田  
上浅 風廣道寺二酒 富 山 舟高山岡田高佐摺鹿藤千々 館服一小加田川矢藤橋山世三松 愛 知 横樋黒辻飯中佐丸兼外浅伊本阿矢足小小近藤吉

賢之治文弘富行幸生也夫一男寛司子 夫幸英淳俊美昇朗一明弘夫博彦二貴人宏史文利梓司光一弘仁文二秋浩肇一子 樹進男一治幸  
弘聖博章英忠広一哲二利秋 政保 公清博 和広 喜吉俊俊定和武糧公文光真正隆 倫博昇昌行俊誠一 基佳 英 春順千仁

山 梨 山田本澤水宮澤山宮川屋口田井井口 澤島林山出田力坂澤岸村下澤鬼割村崎山松瀬久條田池羽竹口澤井桐野内田 藤本藤田田田  
横山森深清二丹秋雨松古滝長石平水 長 野 林吉中小丸井依功宮三山中宮宮三松尾武末永牛上武吉鳥吉山西涌片上竹鳥 福 井 加協伊増飯東

文男男文夫厚久雄男明子 信雄夫男雄也男稅修司之稔三正享郎樹忠行夫修志夫昭志志夫 浩行宏一夫一之博雄之弘之清一清正肇枝  
修正繁宏昭 文英政清さ 重文文章幸一良主 康広 正 泰治正 正照 康保勝尚清靖 善知芳光廣雅 正裕康英 兼 泰 伸

木田中辺金谷崎藤本井木 川澤川藤島野洲田田菅橋部川島本生井塚子島井沼谷 磯内崎 滝野生野鳥塚崎部末瀬木田久邊山口崎野  
鈴嶋田渡須海老 茨 城 石中長齊野小長森柴小柳矢石中橋藤武長增長石萱菅柴小木川 栃 木 大小塩上松手石水信高鈴藤高渡片樋田高

鈴嶋田渡須海老 茨 城 石中長齊野小長森柴小柳矢石中橋藤武長增長石萱菅柴小木川 栃 木 大小塩上松手石水信高鈴藤高渡片樋田高



八守一幸弘也保博子

郎信昌秀男夫透正樹也明一嗣務司紀子

明重己雄等誠郎則優男昭博一男治代

雄臣広

喜悅洋輝光誠 義良

保隆壽義郁徹 茂哲英順善 健秀公

光幸輝幸 俊春 四公純芳伸進嗣幸和

則康

瀨島川本方中木濱

倉淺野田田山光原松野爪野川木屋尾保

込永山瀨丸貫熊内山野永平永堂房田 下

城名山

東有本早寺緒田黒長

小湯永池上松水前小矢田水中和室岩桑

新牛松福高鳥木佐今竹平小安荒德花津古森山

王饒津

実夫子

彦晴義一夫二宣幸林宏通郎三男行幸勲人稿

也郎哉喜貴郎文治繼一德清德勝宝也一德彦一久雄一豊恭文雄

清澄登

利義伸仲甲良久義英 和弘富浩晃弘俊 清

伸仲正勝 二勝安浩住一 兼新 欽伸孝明準登悅賢 高敏輝

谷宮居

田井田岡崎崎口田武山原坪井 谷崎崎 田林

本田口原本野村崎島田口田本木崎口村野田川屋手木川池田野

土一鳥

佐賀 豆福中松檜山江池末森北大澤森鳥鶴惠岡久小

山能山柏水上中濱元尾宮原松荒山溝庄梅米宮土井八住菊前内

幸一治好孝弘広久好代

二登明成寿一彦雄壽子昇昭利泉之雄夫司雄美利之美憲男

義猛伸人文市喜生吉守治茂二明一

直敏幸末保悅和隆史菊

祐 孝章 浩勝志豪美 元博 博行秀浩幸隆和克勝正五

牧 英武博新博武保員賢 伸寿英

田口山川井田石田留本

村山田藤庭田藤岡石島内永田場下 末田澤村岡本野木

川澤内野橋垣城田木築野宮上野田

浅溝中有松永三濱津松

中関福佐大吉安片二中竹吉平大木原池黒三木池松塔佐森

中合藤大高峻山森高都井二池川太

和久雄治代

雄雄志二智清郎至幸樹繁義雄昌裕敦裕一吾悟郎惠

一啓忠男一眞典造文世 已明明人豊昭彦重治章則

俊 良眞滿

正照篤浩孝勇伸一頼英豊博恒元明 秀慶 千和

修和 壽章 惠雄昭喜久 眞和弘明 広一 俊 重

平田下島本

田橋藤部部智原野田能下田田田本宮家島宮原田

居田堀保本川本岡井内 木本戸尾田津屋 東永端

大岡井高松

和高伊曾渡越柏芳上菅松古上古長藤宇清八二菅前

土西横久橋石松安柏田 佐川錦松富川丸堤犬岩川

昭誠次次三秀次哉司行次司美史代

文裕美夫平次治市明男春治夫勝朝

幸司郎人博蔵治裕義明司久子

忠 修英英信勝克京宜基浩忠正美

猛嘉正一昭博作昇義鉄敏利幹 昌

敏哲新隼 竹清 毅正貢仁房 義和一一登志

井居藤井川井木田根

野本浦田部 満野丸富邊村中川本西野本村田永

井磯 下岡尻胴瀬丁本平谷内 好口田山中

濱土佐粟小澤荒小山柄奈山三神西

山口 義杉牛吉田河田鮎宮小河西西大吉

藤金森日西川数廣張古梶大木 三谷岩遠田

一子一実典之清治豊進雄男章

教夫吉一二郎積勉則行清洋征誠夫文樹稔亮雄秋夫明夫重志豊勤雄子

夫忠昭司朗春文

孝京義純浩勝 千 澄春忠

政照一孝浩泰穂 教繁 俊 雅嘉直 文博秀壽 幹一隆久 行菜穂

中藤田部森藤本田本山原谷田

場邊峠草田田原邊山井嶋野田司島本島口山宅賀田山本波岡本川木

信泰芳俊芳和基

田伊原武大齋松岩滝景藤兎前

岡山 馬田大江中沼金井七矢光綱奥内中福河中山内三大佐下柳難森西長芦

平中川今中下深

精績章受章者

2,283名

二和文之郎美則

雄義慶敏芳芳善

橋巻浪 部邊野

諸鉤大森阿渡川

治司明裕弘市志

幸博重 幸惠喜

藤川 尻廣野川

遠細原野末下長

司志光敏章一貢

孝勇政正晴

岸蔭井代崎辺谷

川日平米森渡酒

茂信男昇則宏夫

昌公 勝雅幹

田谷池崎上野沼

福新菊山水清大

彦一雄弘美己志

和賢茂 義勝一

野藤村川藤木

清佐久市安鈴原

男正二司利

英敏浩謙倍

井岡田羽本

乳田村丹橋

北海道

井岡田羽本

乳田村丹橋

永清人喜薰一哉輝俊彦一宏士信子  
一 文秀 養正幸 治俊佳真義より  
藤橋石藤藤岐藤 谷藤司野藤石邊  
佐高住齋加土齋堀洪加莊前近住渡  
福 島  
兒治誠昭正一之夫博義利春信裕勝彦勝一郎太浩喜子重一典一勝弘成勝幸勝裕人幸壽彦寬紀吉美幸晴一一  
光幸 利勝庄博行孝一英義宏朝正重 晃伸 和勝恭喜新和哲清正重秀秀 正政 全美嘉和和紀俊昇伸  
分橋田間浦輪澤藤子藤野野間木藤川藤上内本海部木 藤木谷間上田保藤木橋田野 藤井川坂木藤木山賀  
追高山赤三奈良 梅齋金齋齋菅佐鈴伊石佐村行橋七日鈴原遠青古佐村吉新齊鈴小山大館遠石佐井鈴近鈴丸芳

志実門一男美夫信茂一彦秀  
忠 左衛門 昭富千利良 邦輝 義俊永超昭雄吉幸弘昭雄進彦治健彦也雄一史樹樹昭齊行人也強彦樹一夫雄夫樹士之一孝之志彦一人郎敏昌俊喜  
山川田藤藤寺澤寺 藤田本 雅英康清浩哲勇広光 富 勝雄 武一義健洋秀功 義一勝 克重純光由邦貞公克敬一博一和修正俊 與 和  
谷石柴加佐小黒野小菅伊寺岩 山形 部上山井柳津園山津藤辺木部藤林 榎田藤澤水澤藤部藤州藤司橋山橋藤上木摩川津橋木 名 田袋木藤藤馬藤  
長石柴加佐小黒野小菅伊寺岩 阿井小岩一梅桃村大加渡茨阿伊東海岸富松佐成信沼加阿佐甲加庄高横高齋井鈴色石鳥高佐平椎金和衣鈴齋伊相佐

雄幸勝吉一俊男一晴清一夫弥一明悦信豊忠彦男男正喜子江 樹一聰正子弘夫一誠一美基一信誠門夫元已昇紀門円利一志市隆美久一衛藏一二  
幸敏幸勝裕明宗功元 久民勝周秀永吉 俊輝活 貞幸澄 秀正 鉄妙一武健 謙孝秀喜敏 與武 直欣清甚左衛門治正欽仁利正俊 文善裕俊丈  
垣村地木井家藤鳥藤木測寺津橋原橋野村井田田谷葉橋野谷 山田谷村堀測形澤鳴藤元井谷木上葉玉黒田坂塚野藤原田友藤藤林崎藤橋藤田川  
坂田横鈴今氏佐白須佐岩々野野 小奥高菅高郷木櫻須吉熊千高前峰 秋 田 青高熊北横杉山大中伊木石加鈴川千児石藤保米小佐藤湯大佐佐小林佐高佐荒石

修正夫勲晋夫孝和昭喜行悦男由敬喜則男將郎男豊雄宣美一男明代 良夫夫雄利薫博美朗美一美次進次良男郎一郎治一稔二悦寿宰見昭浩悦男  
善晴 早成歳 政宏啓初一長孝忠國喜德一 文秀松俊克 典 久富敏正昌 正一記政利清富 敏正節卓昭榮雄裕 上太嘉 勝正邦孝秋  
原藤田賀部川田部石川田藤橋葉部米川鳥慈内子原主松寺上葉田澤 口子橋林橋木間葉保橋橋田間問島田野保野津橋浦藤木葉永條林添戸佐藤  
藤佐多平阿及石阿赤及吉佐高千阿下及福久土金藤襪高小井千石半 宮 城 山庄高宮高鈴赤千大高高太佐草八山菅久佐谷高三伊鈴千富中小桑宍遊佐

郎則仁三德光一明史一光春宏一司夫勝真惠彦志治幸德學則一茂誠郎子 治利夫男夫美路雄一雄明充令美彦春男保真彰利夫昭司男剛悅郎孝雄  
助勝昭幸一芳功 正兼善勝 正幸晶壽 頼猛博広弘一 一 健裕 一貴 太政英幸隆友康由 幸克 芳保一清隆富 昌吉義清松 新栄藤龍  
山嶋藤野林口山原根林原藤葉田村野木崎内向田本谷中馬倉田山藤井藤 川澤川木川村井池中崎木藤櫻敷林藤原上原寺山木田藤 上野井原本  
新田佐坂小鮫新小関古中平稲越中宮元蠣相小山宮洪田對石澤松遠佐佐 岩 手 古藤古佐小川藤菊山山佐佐八鍛小遠菅滝下小島佐泉佐森村上中菅佐

男公務己一弘文博武弘彦眞行美弘臣裕廣郷雄夫義司弘紀春人保一夫正継美範勉悟繼昌宏雄一三薫美子子  
鉄 拓弘光博 康敏 正正勝正 圓康道孝仁政武敏正正賢雅忠清武康 道光 重健健 晴小ま由 春司進善光雄雄治人徹雄一男徳  
司野藤木藤谷測藤崎原田辺測藤子 鳥原湯中林田田藤西利濱 林内田原橋場本田浦武木松木田見藤元元木 喜誠 久武二美志  
莊榎伊鈴遠熊馬工尾菅星渡馬佐金星西松大田小小砂佐上素小畑小山山菅高大橋岡三蘇佐金佐穴清伊秋秋高 青 森 角葛今築相天松奈大佐小田大增

男成夫二保剛一良學則修勇夫一齊春悟保世行厚征文弘司二勇裕茂弘一由奈 夫博生司一功孝已夫晃照明光道夫雄也一薰忠信伸彦夫樹彦男護  
牧千幸光幸 圭一 和 邦賢 教 三浩 広清伸隆浩 健 達昭美香 義 益浩浩 正哲一和洋博稔久春達慶 宗勝英邦美秀映安慎

木田里田口藤田川倉治田川家瀬井村口橋島藤戸井澤木辺田澤井田雲村塚本 田谷施本瀬吉水田岩田丸井倉根谷瀬山中 藤井崎橋野本本野  
大町中諸野遠蘭粕一美宮市久長石野山高矢齋神櫻竹鈴渡村宮岩將南中大松 增三布橋廣國清真大村松石鎌島染黑中田森原内新半高菅松永

勉春彦之清 喜洋一晴明之雄雄一寿孝一弥修弘博幸久治一男彰正一明雄一司茂美義一求文康雄幸豊治晴男男更勝巖誠勝明也司進子井 志

良一裕 信聰倉光正千恒秀光 信浩一 通一隆良英章正 和俊嘉三 要賢 正一真 康晴善正 欣利辰秀 雅克孝 稔三 仁

部野崎村井 井野田橋部木澤島井村崎嶋中崎崎島木藤木田村宮田村田邊羽中沢保木中谷 田崎原倉倉井田橋浦川田川澤村山崎原池井

阿天杉志福 上中串高卜青古小深野芝大田大山長鈴加青西木小岡中島渡青田長久大山守象山宮栗大獅坪島高三小澤吉大下丸藤松堀新 一

敏雅壽和行正和幸春雅雄宏世子太紀吉人次子 一子彦夫子雄一治治雄信光夫一康朗淳薰一夫茂一佳彦治博枝和一樹一春夫治樹一資夫史裕德

英俊正昌利 豊昌光征律和昌智 裕信洋裕紀 秀幸和孝知重弘三清孝秀正牧武善友 誠哲 秀国敏恭庸幸久進秀雄信紀政直淳將幸剛明和

野井築黑澤本崎藤田川木林野藤田口井村田本 澤部賀中山田上藤田山山江 山川井田原瀬川方房口川上草海島藤谷澤藤泉泉橋室木林里泉崎

大澤都石大榎木武指宮青小平齐池谷百中池阪 大阿有濱杉久水佐敷西内德林内皆安山吉廣市土大山柳井井西中佐小小齐小小高山一小下小岩

和一雄茂保幸志仁一好晃明也栄子子 高昌一子一基一子男昭敏介夫巳子吉雄夫夫泰浩寛幸子男貢浩二司子藏博治康一樹雄昇春夫博彦章作博

秀幸達 浩克 勇政 良和廣昌和 博 栄美昭 誠ひ八英政康一茂三智憲辰信知 尚和祥 雄雅幸一正良悦健雅滿 善道 雅 耕正

村脇田岡子崎藤川出田田川畑嶋田下 林本田内 尾山谷水川田藪 井貫田崎本賀 東崎本浦谷林田橋保田田尻川藤向嶋橋生口木野田島土野

市門飯富金寺加白平野干中北平氏竹 小山池堀森峯梅速相柴笹南金大上岩岡浅黛伊篠宮杉澁小内高大合池井市齋小中高飯樋鈴中安青安久

昭已充明治之広夫見一幸明徹男一司成仁二史弘剛幸雄昭宏雄之則明勝義保一彦行秀則孝文七晋則明昭樹人男好昇吾男良彦博雄豊治文豊充郎哉

數 雅宏智晃明廣健敏洋 一雄裕幸 浩陽和輝義哲忠 勝裕優大 茂 晃一敏明光 政清 利 忠秀勇英和 進安文治辰幸 優敏 明雄直

田田保 橋野島橋田川 井本田木保藤山里野橋川島倉藤橋田口鳥邊山部田部本部賀坂崎木間澤田橋山黑林野塚内原藤邊橋藤邊野村木嶋井卷

山本新堀室西中高今長近石橋羽鈴新佐古小中長石宮白加諸相川羽渡森岡廣阿山江羽伊金齋風松廣高村小小大名竹菅佐渡高加齋渡石田寄北今風

彦久昭明道弘司弘一晴明和光久作衛一弘正司夫一昭光彦嗣健雄人道美重幸次二美一隆德春久 雄博彰公喜行志雄一滿彦一功純行仁一久一人

康俊博利幸健健克光嘉隆美政慶東和健 正睦佳宏 正泰 隆正正常金博健孝成代 秀 幸光雅規元隆昭輝俊 明貞 雅義隆一雄好

珍藤瓶 澤木 鳥橋間橋林田村木林田島嵐賀野杉木木野口野尻川野原葉永澤永藤田崎藤子藤 田澤 山井部林田藤林 村戸林勢富子落野瀧

明佐二管穴大星中唐佐久小藤津鈴小舟川五芳平本鈴鈴丹野草篠小末愛末後藤松佐佐佐 有相星中坂阿栗相佐小原田杉栗加三金水星深

幸 男明藏一雄隆昭進樹美雄篤夫正春 夫昭朗雄博治進二夫暢男正雄志一正則男浩徹昭修雄男二美 忠文浩清次副作志芳文夫雄充則滿

美 洋清孝良幸 義清直雅光 敏保千 正秀英三 慎 憲恒 秋修幹政淳安時暢 宗 郁富敬睦 俊彰 健康英清昭博一英 武

村 端田越谷野野 西田路尾岸西野村 林井川島村田尾本谷川元田田 内橋田田村塚崎野井橋 井谷藤木森原木田宮木村澤村上村

西 池西打登平德林川米大松寺小坂江 若作早福大藤打宮角四横辻北石南島高前上高肥寺吉長高楠 永藤安鈴牧大田前小鈴志平中石吉

茂 一郎文明之彦夫行文勇一透史広司久二史彦隆彦人淳男史毅彦之匠志美一美隆紀剛夫重典浩郎子子子 夫雄郎郎優男一則実樹憲積夫一康

和直榮博儀勝義俊宏博英伸 岳保潤智誠博義一由和 隆孝 雅博 健茂正正清英 一和孝 史聡範恵 文三太一裕 繁良隆 秀清嘉一宏晴

本林條倉下田松崎瀬瀬下間村本窪條出澤山倉内沢山本玉井澤上澤田川部村田島部倉菅野科沢山田下 藤木藤口 畑田橋島本木本野口本川

林藤小上平宮増小矢市百宮草木池米上平大横小大藤小湯見藤岡水滝久皆林竹久寺服鎌小上油滝青太岩 後高加谷辻西多石高橋山札奥山岡古

男人収春一一正美実雄秀雄司一司久一江 郎行志幸強康彦美易彦健朋彦利彦取典豊信彦正司春俊二也一俊明史雄彦弥夫誠成弘也雄徹哉博

輝勇 定純俊淳 正隆茂昭義哲淳 栄ふ 幸正武伸 芳勝春 一 有武晃敏 計信貴佳滿隆千美俊信淳 正貫雪英伸孝 和 鉄美 徹俊

野谷野地藤村 澤邊田野邊坂俣輪本井口尾 出橋出 原島水木浦山月出山畑澤村野藤玉田西戸 田倉川坂島田本瀬波水水澤本原田幡口田瀬

海岩高水齋中南塩渡長小渡兼小三坂白山鷲 井土井林小中清青三中岩井石大柳中高伊兒町河西堀山鎌小高眞柴松百秋鈴清北山榊上降澤原古

広一郎則佳明好夫善行茂之一浩司行彦治弘男昭誠幸雄政男博史一博誠司一行一昌男幸博雄子 香宏雄昇勇章照優樹彦美二茂良修人賢宣

長圭一和幹利克幸邦弘 正洋 清俊利 和和政 正純幸孝健隆晋勝 桂賢則誠隆秀伸勝久桂 文改智裕善 繁元治英 典 治正光

葉木田尾島野井口塚嶋 木島田目宮倉本島田川山林岡田坪目田井瀬笠藤川森野 中室田田 野丸田中保刀藤東山下嶋原坂出泉澤永藤

稲鈴福沼長伊白山篠尾長古細福見清柏岡青吉荒高小片谷大生山月長日後小大高星磯田戸牧増 千金鶴田久 大功遠伊向木中萩長井有深松遠

一和弘男明昌勝浩志男浩芳明郎一男茂久悟一隆晃央明之則知之造雄繁男功繁男充雄男孝人美男昭昇夫隆彰男司美夫夫男光男一男美明男子子

元忠利敏美道 隆久 正純信裕史 順 裕清 貴吉正善昌敬耕久 利 和 三福 芳政一 和清俊邦 良政教幸政三昇友義 久寿恵

田本野司本竹根土村塚本川田 本川潤津田瀬井磯藤谷上代本野吹根井川邊所田川部葉野平村木津子津本林谷原添林山見子合崎尻林澤田藤橋

寺根岡郡宮飯篠古木永根吉吉笥笹西増石堀木荒小遠染川三橋弓矢片糸色渡田飯中阿稲小仁木茂大銚石松若染吉河小小土落小川小黑植大大

弘彦通正行修信男樹元繁修男夫彦郎雄弘彦浩一明之也司則浩弘業雄博次明章武夫生一郎紀市裕広靖彦規陽典雄雄夫志子子子 己治彦弘行壽

克一崇勝孝 重和秀伸正 昭勝信一哲佳勝 壽英重徹昭正 雅弘義貴康政博 康高桂慶良 卓智敏浩 昌和茂喜政晶 久美

崎澤賀口藤鍋松尾邊澤市瀬生名良根木秋毛藤木川熊 藤藤倉川野倉野杉峰生本上橋上塚金井上田野曾本倉野田山 津村田部

柴田大野武川杉高渡塩古岩瓜椎奈細鈴木石佐高越柏堤齊齊小越大小吉村永麻山村高三君須石川角平木奈小吉時中森阿高山阿

須 谷所村根山野 雨田木中大淺

石川

富山

野長

福井

三重

茨城

夫一悟幸子誠吉彰康豐吾樹勝也介也紀彦昭樹敏大剛夫郎平孝功明祐司宏人範史尋武明明宏靖之司裕樹生威也已弘則光也昭廣司生 夫平

住啓 浩惠 幸千義 啓圭洋 哲大拓英克文英孝泰 正健一 浩美裕公計雅純唯貴 孝範祥 孝博修智英隆格和稔訓喜泰慎 幸忠好 正武

田好田口島光田原中 澤立内本田川木立田 本寶田崎村田 田 永元部水田本口井原浦原中田田田住 北下川西岡本田村井崎本尾本 杉三福澤福金檜藤田倉長足山森園前青足德森傳與磯西山原與南富宮矢清山山谷新藤松藤畑吉松森魚北大木瀧村廣山西野中西濱村岡 清栗

良 奈

二樹弘通孝澄之典高弘紀誠郎幸容男二介代 進德雄一樹彦也之和亘啓伸郎正稔志央誠也晴弘雄統德榮明則郎孝信子晋吾広也弘智矢人進雄司 義文廣勇敏和一德利雅方隆一勝 武幸 利得欣由昭隆秀秀英和文政明 昌好勝善之龍將 正圭

哲直和利光忠浩隆博文亮 幸昌正伏誠惠三千 井宮崎村枝中野本安林川塚川本實畑田水中井谷處道野木木村原野鳥村川谷本田野野口田西戸本 西田本岡田野田田原須田原田西村田川浦 今二大岡今田高山中小石鯉長山宗水古出田平新上海神若三岡井前中細糟藤前水宇北西中城松

庫 兵

大岩山中平鳥中至東吉那平藤畑大中村中杉 則彦徹弘恒紀弘宏之二光浩樹永見德史樹暢信學敏生征弘繁淳浩武郎透昭二昭宗治清司明進子子 昭豊真夫幸武

文成浩誠弘正勝彦樹德子 友一 泰久弘明公弘浩秀義榮良 英浩直正成 英治泰和 尚義 孝功元聡幸義勸俊 裕則 輝正

俊一和 康康政美正美郁 田村後船上合村住門内而本川川本賀崎藤橋畑本田田田佐藤田林呂原井野瀬村崎村田上井田田井 山田置井谷脇

都 京

水谷谷内越水木本部口 嶋藤越早村落木吉長堀今長吉衣福荒河近倉田堂黒太松土伊安小茂榊平菅川大岩寺和井吉上芦三 勝増玉澤小山

阪 大

森田黒森垣山清鈴橋西田 二昭作文也弘示良夫壑樹一二雄孝司涉郷徹利二介睦一市晋典澄信稔道明治憲史貴悟勲治明宏則二治

三靖一行博司一孝央彦努秀介宗之宏美 修秀俊利克正章竜藤 俊淳裕卓清耕 真 哲憲慎 幸庄 行佳弘 隆尚 良建昭 幸盛竜忠成雄

阜 岐

幸 敬弘光剛弘益 知 康俊 祐光福 澤坂瀬屋原山藤津田腰井木島山邊家原藤橋田野嶋 山池幡 澤木田府林井沼里江藤屋瀬水 原辺田

本島野田原井山則野野坪田井井本藤山 小小川長河葛伊志戸竹高高小杉田大奥佐高篠大大森中古小林大澤飯別小櫻長中堀伊室廣清林石渡篠

杉池石太篠石長山松天大金坪藤山佐杉 行悟佳雄之久博健幸弥久和和郎勲男孝章宏伸平章正志典弘文美信人雄司

輝幸弥幸み愛己之樹之二人学人彦広寛仁志己浩介次英彦一寿也 厚 重達靖佳泰 智浩武恒久繁吉 一 博一泰洋 礼洋昌忠雅義弘康勇

和佳琢成る孔博貴宏貴功章 直元育 寛克宜佳圭勝克栄仁和 島邊 本田井山井品田谷山田藤野田山藤野永月鳥下塚村井堀下川山藤 庭

藤本藤合川川宅山澤藤内 田下澤田本田藤藤藤藤垣川谷藤藤指 長渡堤山飯櫻中酒水浅森米山佐依秋佐佐松望青栗大今酒赤森石杉安辻大

加橋安川石三勝塩齋竹泉内宮谷原松吉後後武安稲長熊伊伊金 静 岡 博一 泰洋 礼洋昌忠雅義弘康勇

寛彦功力保平洋伸博美則人治幸嗣之士子 行美衛弘己一登次研治彦一雄成雄進志吉男雄敬夫子宣正雄一学太滋夫治一二仁努治寛男剛司正正

靖 正伸光記隆佳正栄良元禧訓滿智 純弘 仲克健 森 勝尚隆國義靖 勇一好輝弘則鈴佳典昭敬 正栄常 昭健聖 憲 文 泰弘明

垣中田崎野際田谷本形後本野鳥保崎口田 田田尾 井田藤森松川上部羽口邊水上本江達瀬瀬田本会野本木川木田田内越藤中田原崎飼田谷村

上谷上山岡山嶋嶺山矢羽谷岡幾久田山藤 森瀨野森坪浅加大若石村本高樋渡清湯瀧堀安村村森松渡小松青小鈴岡梶山名加塚山神熊猪堀水野

知 愛

森瀨野森坪浅加大若石村本高樋渡清湯瀧堀安村村森松渡小松青小鈴岡梶山名加塚山神熊猪堀水野

也弘行幸行喜吾裕樹久久剛男男樹真司夫代  
和貴美信延直惠恭茂和博 治吉秀快弘達美<sup>智</sup>

居米宮淺床崎本井原井田口川宅本本宅竹  
新久一壽湯木松山藤篠猪宮野香三瀧松安大

香川

則夫男利稔則廣哉弘一則一也一一義樹郎秋子  
正靜一繁 政 和安隆正誠哲健榮友保直悅三<sup>千</sup>る  
村尾藤丸田尾良村本原馬田本村田藤本山川好  
吉浪加金鎌高奈松岩松有藤角橋松岡神松秋前三

愛媛

文志行公雄務二和夫泉郎人雄清治久志雄芳  
昌高勝 輝統誠真一 憲正光春憲一健信雅  
井藤部田野木森水我山田智藤原上下田 野  
石進曾堀小白杉石曾片武越近藤村山豐森網

浩郎盛昭樹一輝見篤樹二子  
一哲寅孝芳貢秀隆 秀龍尋  
井野中本島田張田戸森井野  
藤岡田迫八黒出山穴城向沖

山口

治次夫章俊明敏朗和実明行博城一郎夫廣一人己幸薰滿夫雄造文男男勝吉晴保守美江<sup>み</sup>  
重信道 一正好太敏博義孝信光啓一隆兼好孝克和 義和立佳和英 秋滿敏 達久<sup>美と</sup>ひ  
石下田原野口谷部村川村浦川原本下山野野居本浦村田田川本上永村部山田水上刈村田  
白山安岡阿原古服吉船中三平松宮山杉河宇鴨村三岡菱平立川田福河阿西村清中茂西花

島德

雄良巨徹彦彦男博功  
德光剛 鉄恒孝俊  
佐野西橋崎村本宅市  
岩佐大三米中西安武

美保二久一仁稔樹壽清一一成巧明司博茂郎子美  
正幸禎典伸浩 佳則和陽雄克 日豊 四千直<sup>鶴</sup>

島廣

二則夫実彦明生之信猛弥三治克孝行司優夫則一和治輝幸男弘範誠志和志喜誠豪也啓敏司敦  
雄義幹 則高誓哲靖 一廣 正善則浩 和幸宏博銘正博幸辰和 和豐勝政 由伸昭隆

堀河井磯佐綱西秋松石松田長出川利岡森瀧松柴  
内田戸田藤島山葉本田岡測畑原崎守本木口本田

武堀

田崎内家尾田田田吉田村原岡本本本野井下達原垣山橋川坂藤平原林森本中保淺田上島永木  
山川堀古田和山原富松中菅住青里宮吉唐山安杉高津高水深佐大石小政山今久湯井井松富正

一弘男讓夫治子忠男  
雅滿文 敏修好広三

岡山

浩健則泉明明德一三隆二信夫滿三治久郎則次登史之優一樹政彦仁史孝成正明之昭市人郎祥文明一敏通和正一亨之修男  
昭 佳政秀淳宝 賢一昭 睦榮芳知泰修 拓浩裕真建光忠 充 光泰文雅光榮義耕雅博浩孝勝弘広文雄 信康聡

田森先見藤本吉尾田  
藤月岡倉齋橋實村藤

岡山

田崎山口尾萩本合谷野垣藤藤下禮田外野村谷田澤藤田山山 崎宅波藤名丸田井井場邊田野馬根松原谷尾畑田井林測黒  
稲山丸田妹矢磯落守川石安佐山永明田牧西平中赤加千片橫澤森三難伊山平贄石酒馬田原下岡山赤神山丸高石酒小田目

隆三樹仁彦生男吾勝由朗取児義美行之見子  
速正將雄佳時真 和一 賢隆稔義康嘉治

鳥取

弘郎也太幸郎一明則一典一照文<sup>み</sup>  
義勝<sup>太</sup>文 義悦順博重要幹良善友<sup>あ</sup>け  
博輝 建勢<sup>次</sup>敬計義利忠 真 信元孝俊 達慎一一康幹

田口田地田口岡崖本田石内本邊 念田 北  
廣北竹下坂谷中川皆福大竹山田森知中乾上

鳥取

上田山安崎野景野野本居城本山根  
村山木房今吹福日淺橋土下梶陶山  
下谷川花村谷藤野田田村野藤村田山井藤田崎倉林谷中田  
瀧富小板中戸内上砂矢木佐加小西森光加原金日中鳥田内

鳥根

和弥仁嗣郎史偉文紀司稔博和義一生治定久子  
秀豊茂直金惠吉雅晴靖文正久忠修英利 祥

鳥取

行郎郎高薰吉盛夫宏隆要守夫男郎昇郎互次藏隆彦勉郎藏代  
弘捨<sup>次</sup>一浩 誠和孝和 次三善<sup>喜八</sup> 清豊松時 十幸靖  
弘治司芳弘一成行郎一進彦文

崎本井古藤畑田田井田城川木口上前本窪木  
林石森糸佐齋大稻稻加奧古吉三谷宮福今佐<sup>々</sup>

滋賀

林川本村内本田本川村嶋 本村倉村 田川田田川西壁尾田  
小中山奥竹松柳宮西野中森山奥石北関戸中深倉古小渡深寺  
保水野岡玉山本野本村浦崎崎  
久清屋西兒崎森中柳西堂山岩

和歌山

司夫二明洋利正弘一剛男二士廣昭一治光則則治也二喜之生二文明二男二廣德子

誠嗣修忠昭典賢哲聰正和讓研幸博修正照昭友健和昭康博成健武孝龍五誠和光惠佳

上山方子方山岡村岡松屋瀨山越田田本島崎永見田岡塚嶋田中田藤塚田田田

井茂志金緒西三西奧村西飛守藤遠鳥塚藤橋名下福穴藤西高福本田田森佐大澤永笠

司則登豐武郎光吾郎稔秋昭生 郎一之美利正德治介司和一司隆治直幸幸信德一博和正夫博士久郎助也宏明薰宏司洋夫博人作介樹二之修利雄

新良一 賢征憲逸 正秀裕 大昇和浩弘 安見圭征正裕 榮正數和孝博昭智秀敏信隆聖弘慶幸勝輝憲 貴順勝公和敬榮洋建幸博 信靖

原浦崎口測野嶋上間村崎行武 田原澤田野尾 田 石崎子崎田田木田内豫藤森野崎本本宮本田野玉岡村庄原田本本 岡田見下山村松下木形

吉松尾山片草田大橋下檣執光 廣星中本吉松藪清森白松金岩森池高水堀伊伊前植須川岩高塚上大兒松今古栃本寺山境松藤穴山内中恒山樅瀨

美兒己光治則賢肇三一信美二弘政明郎士義明保治介隆純り 明久二芳司司浩明樹武市雄隆昭吾博美美久一博子清紀葉豪彦郎行幸史記守樹文

朝健政頼好義保 浩昭久勝敬光康英真博一裕 誠洋清正さ お 高佳健賢 健良弘秀 弘和清弘新正茂晴和浩勝紀 昭双 敏喜淳弘博久 英芳

野木嶋田花川田本山瀨尾納田谷永場藤田手本藤野田藤原吉 井島北江吉執森堀石吉川中森小松金野金馬浦中宮梶山中久山大箕小伊江野北東

松櫻平江立白柴坂平廣竹新古熊糸馬近野幡井安矢浜衛梶有 佐 賀 上 鳥口次行 崎原添島田松本丸崎子崎川島崎原口村山本坪原林東口田川島

弘明二弥光子榮代宏德一夫一一夫法雄司好平剛子彦介秀則治一保義兒郎樹稔典男郎德雄一功一俊志生治 也高明憲弘男清修治治榮章幸美治

和憲秀新明直 照昭一二康登專一秀邦祐良勝 芳文敬忠勝英惠憲博憲昭辰 良幸裕幸幸潤 健志隆達榮 欽森高国 今朝 健啓孝万博年彰

上藤續崎口成水嶋成橋田澤科田本浦山田崎原山尾村藤橋藪田崎尾辺見田野畑本賀 山下田野田木本房山 野山置野石川藤田東中橋野藤島野

水佐吉正山友小藤倉石藤西仁岡辻三石西福田前中庄後大大野鳥橫渡近角前奧森古秦橋山谷古吉荒作廣松 大橋笠長仲市後原安竹高菅佐溜宮

一吾治治男則男孝幸昇男洋郎道男勝均悟夫章明己啓光郎男則生一明二博義吉利成二幸彦治三男志英吾市み 夫朗郎和次臣治之任二彰美二治

耕健隆弘喜純信浩元 辰榮正輝 眞靜 美博 康弘俊嘉正孝政有勝貞善龜一修浩靜新利忠龍知健昇ひと 彰浩真一廣金憲浩保啓 和憲幸

本崎男野崎川林中 島本下 川松田上手中崎宮本内 里山原谷崎木村藤尾俵嶺崎川川林田山田口島崎本富 福 岡 保田川 田方保田木田塚田田住崎

橋濱岩天尾黑珠前東本山松森田平濱井井田長二山山堤入松久水岩藤中近松兼小森相石小池中前山中宮川稲 久石浦富緒久柴鬼下手藤平吉松

治雄澄和賢寬志生幸樹司記士一繼一生久仁夫純憲一幸幸利彦夫幸仁之平正江子 夫次士二雄男雄藏幸則行二文威男司三作貴文次子 秋造

誠俊眞眞 壽 萬陽和秀啓直龜浩弥誠一幸 治清昌新浩利三安清義清浩 和由美 慶俊曉龍道憲和勇哲春延憲博 惟卓卓耕裕忠勇孝

崎 家 西岡田保 城滿寺我川崎上谷上沼川本内中川野上田宰田井山家原部井 中岡 本下頭内來村川中山岡原崎村田岡岡宗脇 和孝

山森闕森大上戸久菅八上万芳丸篠井大井水宮西大山玉濱井村太西平小清岡眞高 田片末松山千武出中市田青山内山北和産片片岩谷 長 崎 藤島

伊松

小寺早黒原羽清吉酒田馬甲	川原川木 田水田井部崎斐	一孝賢誠聡一功義健幸清義	三弘治志郎二司光史夫哉浩	藤中 鹿兒島 吉豊島坂濱岩尾山	川原 松島納元脇爪村床	英 ゆかり 宏勇正鶴敏 志藏人雄盛隆勉文	下吹 重次幸丈利浩伸忠信 政	越原山下玉池崎田納下口倉	誠信博男志美敏一義一滿弘	大能堀上堀中脇今持古福和	野野内野内村田井留川森	和惣 敏義 健幸幸和芳	美市剛郎和茂一雄二史美昭	田谷二福貫橋山福中	崎川石留見口口滿野	昭 純義広浩忠義美	彦満一幸幸已昭洋和	古知與仲坂嘉諸饒平	堅念儀地下數喜田名	敏秀富英俊 奈	光和雄晴一功智美
--------------	--------------	--------------	--------------	-----------------	-------------	----------------------	----------------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	--------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------	----------

勲統章受章者 7,491名

北海道	田中 信幸	他500名
青森	須藤 光則	他196名
岩手	荒屋敷 清治	他399名
宮城	結城 由夫	他337名
秋田	高田 正一	他292名
山形	笹原 和行	他134名
福島	渡辺 隆則	他217名
新潟	阿部 寛	他217名
東京	古屋 俊晴	他186名
神奈川	岩崎 一雄	他168名
埼玉	多ヶ谷 孝治	他213名
群馬	鈴木 伸弘	他45名
千葉	荒井 良司	他197名
茨城	小森 雄三郎	他162名
栃木	小栗 功	他69名
山梨	横山 賢	他56名
長野	白田 和久	他59名
福井	水島 三雄	他52名
石川	澤飯 英樹	他49名
富山	辻堂 一弘	他139名
三重	安田 孝一	他69名
愛知	松本 峰夫	他133名
静岡	齋藤 与一	他48名
岐阜	森 広康	他63名
京都	豊田 穰二	他102名
大阪	尾崎 豊春	他87名
兵庫	池田 徹	他233名
奈良	宮前 利治	他56名
滋賀	馬場 照直	他69名
和歌山	坂田 友良	他189名
鳥取	小河 克久	他79名

鳥根	福島 透	他118名
岡山	亀川 啓文	他338名
広島	横田 幸展	他265名
山口	渡川 賀津雄	他232名
徳島	松浦 一文	他153名
香川	吉田 茂	他135名
愛媛	川村 正則	他230名
高知	三宮 宏之	他115名
長崎	三浦 学	他150名
福岡	今林 達哉	他156名
大分	吉良 誠	他201名
佐賀	亀川 誠	他68名
熊本	山本 伸也	他192名
宮崎	島田 谷次男	他94名
鹿兒島	枇榔 稔	他218名
沖縄	安次 富一	他24名

優良婦人消防隊 (表彰旗) 16隊

都道府県名	消防隊名
北海道	登別市女性消防隊
岩手	平泉町婦人消防協力隊
宮城	塩竈市婦人消防隊
山形	大石田町女性消防隊
神奈川	湯河原町婦人消防隊
栃木	足利市女性消防隊
福井	上黒川町女性自警消防隊
兵庫	栃原婦人消防隊
滋賀	高城女性消防隊
岡山	笠岡市女性消防隊
山口	深浦地区婦人防火クラブ消防隊
香川	綾川町山田地区女性消防隊

愛媛	八幡浜市女性消防隊
高知	宿毛市栄喜女性消防隊
佐賀	基山町女性消防隊
宮崎	高千穂町女性消防隊

優良婦人消防隊員 (功績章) 16名

都道府県名	氏名
岩手	大向 きみ子
宮城	亀山 いつ子
宮城	及川 秀子
神奈川	島崎 節子
栃木	洪井 美智枝
愛知	西尾 末子
愛知	林 美智子
奈良	竹田 節子
滋賀	横井 美津子
和歌山	松平 幸子
岡山	小橋 恒子
山口	嶋岡 八重子
香川	南木 里津子
愛媛	菊池 さゆり
高知	野中 文代
佐賀	山本 頼子

都道府県消防協会等役職員永年勤続者表彰受章者 5名

日本消防協会	泉水 あや
秋田	佐藤 孝子
神奈川	三乗 洋元
長野	滝沢 真由美
福岡	伊藤 陽子



# 消防団防災学習・災害活動車両の活用事例

(公財)日本消防協会

消防団防災学習・災害活動車両は、消防団を中核とした地域の総合的な防災力の充実強化を図ることを目的に、平時においては地域住民の事業所等に対する防災学習や防災指導に活用し、災害時には緊急車両として消火活動や資機材等の搬送に活用できるよう新たに開発したもので、日本宝くじ協会のご支援を得て、平成26年度から全国の消防団にモデル的に交付しました。

ここに、その活用事例をご紹介します。



消防団名：松江市消防団

## 1 題名

消防団防災学習・災害活動車両副市長披露及び資機材取扱講習

## 2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について

松江市消防団は、「消防団防災学習・災害活動車両」を活用し、消防団が地域の防災リーダーとして活動できるよう、松江市消防団防災学習・災害活動車両運用要綱を作成し、消防団員に対して指導技法、車両及び資機材取扱い講習を実施しました。講習修了団員に操作員講習修了証を交付し、その団員が今後地域へ出向いて防災訓練等を実施していく予定です。団員への講習は継続して行っています。現在講習修了団員は77名です。車両及び資機材について今後の防災教育に役立つと期待しています。

## 3 特記事項(訓練の規模や内容、この車両を活用するにあたって工夫したことなど。)

平成27年3月から運用を開始します。



資機材取扱会場全景



てんぷら油火災実験装置



初期消火装置



訓練用消火器



煙体験ハウス



修了式・修了証授与

消防団名：西東京市消防団
1 題名
消防団員教育訓練における装備品展示運用訓練の実施と出初式での車両及び資機材展示
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
<p>昨年10月、公益財団法人日本消防協会から交付を受けた消防団防災学習・災害活動車両について、市長及び消防署長へのお披露目のあと、消防団教育訓練において装備品展示運用訓練を実施し、車両の特徴点や装備品について運用方法等の習熟に努めました。また、平成27年消防団出初式において車両を展示し、来場者の関心を集めたところです。活用実績としてはまだまだ十分ではありませんが、今後災害時はもちろんのこと、防災教育や広報等女性団員を中心に展開の幅を広げていきたいと考えています。</p>
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。)
<p>全団員を対象とした教育訓練において全体を2班に分け、資機材の展示及び運用方法について2回実施し参加団員全員が受講しました。その後女性団員を中心に今後の効果的な活用方法について検討協議を行いました。</p>



装備品説明会



出初式での車両及び資機材展示

消防団名：高幡消防組合四万十消防団
1 題名
地域住民による自主防災訓練
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
平成26年11月5日に日本消防協会より交付を受けました「防災学習・災害活動車両」を活用して、四万十消防団管内での地域の自主防災組織で行われている防災訓練に参加し、煙体験ハウスによる煙体験や水消火器を使っでの初期消火訓練、消火栓からホースを延長しての放水訓練等、地元消防団員らが地域住民へ訓練指導を行い、自主防災組織の防災力向上に努めました。
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。)
今後予想される南海トラフ巨大地震の発生等、災害での「犠牲者」がでないように地域の自主防災訓練等に赴き、「防災学習・災害活動車両」を活用して、地域の人々に防災意識を高めてもらえるよう活動の場を広げていきたいと思っています。



煙体験ハウスでの煙体験



水消火器を使用しての消火訓練

消防団名：白杵市連合消防団白杵消防団
1 題名
第29回ちびっこ消防士防火運動会時の防災学習資機材による体験
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
今年で29回目となる歴史ある防火運動会を11月11日（火）市内13の幼年消防クラブが一堂に集まり、消防団員など関係団体の協力のもと総勢900名となる大運動会を開催しました。「煙体験ハウス」で煙の怖さ体験、「軽可搬ポンプ」を活用して放水時の水圧体験などをプログラムに盛り込み、多くの幼年消防クラブ員（保育園児・幼稚園児）に寄贈いただいた防災資機材を活用した体験をしていただき、防火意識の高揚を図りました。
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。)
幼稚園児に防火（消防）に興味を持ってもらうため上記の他に消防ポンプ自動車との綱引きなどをプログラムの中に盛り込みました。



軽可搬ポンプによる放水体験



煙体験ハウスでの煙体験

消防団名：宮崎市消防団
1 題名
「宮崎市消防団婚活パーティー」
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
11月29日（土）、宮崎市消防団では、初めて婚活パーティーを開催しました。 当日は、男性40名・女性38名の合計78名が参加しました。 初めに宮崎中央公園にて、消防団活動をPRしようということで、防災学習・災害活動車両に積載している水消火器、煙体験ハウス等を使用して、参加した女性に防災体験を実施しました。
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど)
女性の方に説明するため、事前に消火器の特性や取扱要領、煙の恐ろしさ等を資料にして配付しました。 当日は、男性団員が、女性一人一人に対して上手に説明していました。



水消火器で消火器の使い方を説明



煙体験ハウスによる煙体験

消防団名：宮崎市消防団
1 題名
「平成26年度 消防ふれあい広場」
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
3月1日（日）から3月7日（土）まで、春季全国火災予防運動が展開されることに伴い、複合型イベントを開催し、火災予防思想の意識の高揚を図ることを目的として実施しました。「消防団防災学習・災害活動車両」に積載している、水消火器、初期消火装置、煙体験ハウスを使用して、来場者約2,000人に防災指導を実施しました。
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど)
幼年期から防災意識を高めようと、初期消火の要領や煙体験ハウスなど、子供中心に説明しました。 実際の火を見ることで、改めて火災の恐ろしさに分かってもらえたように思えます。



水消火器による消火訓練



天ぷら油火災実験装置

消防団名：小千谷市消防団
1 題名
消防フェスティバル
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
毎年実施している消防フェスティバルに車両の展示を実施しました。本イベントは市内のショッピングセンターにて保育園児等が火災予防を買い物客等に呼び掛けるとともに、幼少期から防火防災に興味をもってもらうことを目的に実施しているイベントです。
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。)
保育園などの避難訓練では「煙はとても怖いものだ。」などと言葉で伝えるだけですが、本イベントでは、幼児及び保護者等が実際に煙を体験することで、煙の怖さを身を持って実感できたのではないかと思います。



煙体験ハウス



消防出初式

消防団名：大和町消防団
1 題名
AEDトレーナーセットを使用しての普通救命講習
2 消防団防災学習・災害活動車両を活用した防災訓練等について
平成26年9月に女性消防団員11名が応急手当普及員講習（3日間24時間の講習）を受講し普及員に認定されました。その後、女性消防団員が指導者となり、車両に搭載されているAEDトレーナーを使用して、役場職員約150名を対象に、計6回にわたり普通救命講習会を実施しました。このほか、町総合防災訓練や地区ごとに開催する防災訓練等でも、水消火器及び油火災実験装置を使つての指導も実施しています。
3 特記事項(訓練の規模や内容この車両を活用するにあたった工夫したことなど。)
それぞれの訓練ごとに車両の説明やPRを行っているほか、消防団員が中心となり指導することで、消防団のPRともなり、地域の方に対して、消防団への関心を抱いてもらえたと思つています。



町総合防災訓練で車両の披露



AEDトレーナーセットを使用した普通救命講習



## 「地域の安心・安全のため、 未来に向けて」



稲沢市消防団 団長 小沢 実

### 1 稲沢市の紹介

稲沢市は、面積79.30km<sup>2</sup>、人口138,530人、世帯数52,457世帯（平成27年1月1日現在）となっております。天下の奇祭として有名な「国府宮はだか祭」で知られる当市は、濃尾平野のほぼ中央に位置し、かつては尾張国の政治・文化の中心地として国府が置かれていた歴史あるまちです。江戸時代には東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場町として賑わったため、市内各地に、かつての隆盛を今に伝える史跡や文化財が数多く残されています。また、木曾川の流れによって堆積された肥沃な土壌と温和な気候を生かし、古くから野菜、植木・苗木等の産地として発展してきました。近年は大型ショッピングセンターや高層マンション等の建設が進み、名古屋都心から交通至便な場所として注目を集めています。

### 2 稲沢市消防団の概要

稲沢市消防団は、平成17年4月、稲沢市、祖父江町、平和町の市町合併時に3団制14分団、団員272名の連合消防団を編成し、3年後の平成20年4月、消防団統合により1団制11分団、団員290名体制となりました。



分団詰所シャッターイラスト作成

た。この機会を捉え、各分団26名中の10名は、将来的な団員確保を考慮し、昼間の火災や地震、水害等の大規模災害に活動の支援をいただく支援団員（機能別団員）制度を導入いたしました。消防団のOBを中心に構成された支援団員は、過去に培った豊富な知識と技能を活かし、被雇用団員の増加で不足しがちな昼間の火災時に大きな力を発揮しています。

### 3 未来の安心・安全のために

平成26年には、夏休み期間中の8月を利用し、市内全9校の中学校から延べ81名の生徒の協力を得て、11箇所ある分団詰所のシャッターに稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー火の用心」のイラストを描いてもらいました。この活動は、地域防



あいち消防団の日PR活動

災力の中核として、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、献身的な活動をする消防団の重要性がますます高まる一方で、少子高齢化の進展や雇用形態の変化による被雇用者の増加など様々な社会情勢の変化により消防団員の確保が難しくなる中、少年期から機会を捉えて防災についての関心を育てることが将来地域の安心・安全に繋がっていくのではという考えの基、教育に携わる方々の御協力をいただき実施いたしました。夏の暑い時期のため、参加した生徒達は汗だくになりながらも集中力を途切らすことなく最後まで一生懸命にイラストを描いてくれました。道行く人達からも大変好評で、特に稲沢市のマスコットキャラクターである「いなッピー」を描いたことで更に消防団への関心は高まり、参加した生徒のみならず、若い世代や地域住民に対して地域を守る消防団の存在や活動を認知していただき、次世代の団員確保に繋がっていくものと確信しております。今後も、地域の安心・安全を守る

ため、若い世代との繋がりを持った事業を展開していきます。

#### 4 おわりに

この数十年、当市は幸いにも大きな災害に遭うこともなく経過しております。しかし、年々巨大化する台風や豪雨、頻発する地震や火山の噴火など災害規模は拡大するばかりです。年間を通して消火・救助等の各種訓練を行うとともに、

こうした災害に対応すべく、平成24年度から順次、中等症までの傷病者を対象とした応急手当資器材、応急担架及び応急テント、瓦礫からの救出救助を対象とした救助資機材等を配備し、平成27年度からは、大規模災害に備え、救護所を併設した消防団詰所の整備を進めていきます。

我々稲沢市消防団は、これからも13万8千市民の「安心」「安全」を守るため、一致団結して活動していきます。



消防ひろばでの消防団PR活動



## 関市のキャッチフレーズ 「ときめき きらめき いきいき せきし」



関市消防団 団長 多田 壽夫

### 1 関市の紹介

関市は岐阜県の中心部に位置し、岐阜市に隣接、名古屋市から約40kmの距離にあります。2010年（平成22年）国勢調査による我が国の人口重心は関市にあることから、関市はまさに日本のまん真ん中に位置します。合併後の現在の市域はV字型で福井県、飛騨地方と隣接している地域もあり広大な

ものとなっています。

代表的産業としては、刃物が世界的にも有名で平成20年には、特許庁の地域ブランドの認定を受けて「関の刃物」が登録商標となりました。



はもみん

ました。その他にも、古代漁法を連綿と伝承され続けている「小瀬鵜飼」があり、開催期間の5月11日から10月15日まで観光の目玉として賑いを見せています。

### 2 関市消防団の紹介

平成17年2月に平成の大合併により、旧関市・洞戸村・板取村・武芸川町・武儀町・上之保村の6消防団の組織をそのまま残し、関市連合消防団となり、翌年から6つの方面隊からなる「関市消防団」が発足しました。

平成26年4月から再編計画に基づき方面隊制を廃止し、現在の総員1,114名（平成27年1月現在）1本部21分団となっています。

定員数は1,250人となっていますが減少の一途を辿っています。

団員確保のために、関市内の店舗などから協力をしていただき「サポートプロジェクト」事業を行っています。カードを作成し、加盟していただいた店舗などでカードを掲示すると割引などのサービスを本人及び家族が受けることができるというものです。

その他、市役所に勤務する現役の団員で構成された「市役所隊」、ボランティアで構成されている「消防音楽隊」、団の経験者を再入団させた「災害支援団員」、各分団から選出された「ラッパ隊」、操法に特化した人員で構成されている「操法指導員」があります。





学生隊は大規模災害時及び要請があった場合以外の出動は原則しないものとし、人材育成事業を中心とし、卒業後に各地元などへ戻り消防団へ再入団した際に即戦力となりうる人材を育成することを目的とします。その他各種行事の参加、消防団のPR活動、予防広報などさまざまな場面での活躍に期待が寄せられます。

### 3 関市消防団 中部学院大学 学生隊の紹介

上記で紹介した他に、岐阜県庁消防課との連携により平成27年度から発足予定の「関市消防団 中部学院大学 学生隊」の紹介をさせていただきます。

学生隊は、中部学院大学に在籍する学生による隊とし、所属分団は本部分団とします。大学2年生以上の学生を対象とし、定員を32名、内2名を部長（大学の教職員）とし、2名を学生の中から班長に任命します。

学生隊の着用するベストは県からの支援によるもので、背中マークのデザインは、愛着をもってもらえるように学生の中で公募し選考したものを形にしました。

関市の市章と大学のシンボルマークを掛け合わせ、関市の刃物で有名な刀と包丁がクロスすることにより、後ろの炎を災害および火災と見立て阻止するという意味が込められています。

### 4 おわりに

今後、学生隊が県内及び全国的に広がりを見せていくことになれば、大学生同士で短期間の研修会を開催し交流を深め、更に学生隊による操法大会の出場などができれば、現役団員にも刺激となり相乗効果として、団員の減少にも歯止めがかかり、消防団が盛り上がり地域の活性化に繋がっていくことと思います。これからは、若い力を存分に発揮していただけるような活動の場を提供していきます。



学生隊マーク



## 『新時代に沿った 消防団運営へ』



羽後町消防団 団長 佐藤 金一

### 1 羽後町の紹介

羽後町は秋田県内陸南部に位置し、昭和30年に1町6村が合併して誕生しました。人口は1万6千人余り、町の面積は230.75 km<sup>2</sup>であり、その3分の2が出羽丘陵の属する山地で占められ、豪雪地帯に属しています。夏は国の重要無形民俗文化財で日本三大盆踊りに数えられる「西馬音内盆踊り」が、冬は昔ながらの馬ぞりにゆられて雪の峠を越える「花嫁道中」が有名であり、このほか四季折々のお祭りやイベントが開催され、毎年たくさんの観光客が集まります。

また、秋田牛ブランドの中核をなす黒毛和牛「羽後牛」やスイカ、米などの農産物も県内外から人気があり、そば処としても有名です。

### 2 羽後町消防団の紹介

羽後町消防団は昭和30年の町村合併に伴



西馬音内盆踊り



い誕生しました。現在の定員は513名、消防団本部と1～8分団の9分団制で活動しています。団には指揮車2台、消防ポンプ車1台、小型ポンプ付積載車19台、小型ポンプ26台が配備されています。

### 3 小型ポンプ付軽積載車の配備から二線操法訓練へ

平成19年4月から機構改革により19分団制から8分団と本部分団を置く体制となり、団員定数が780名から513名になりました。機構改革当時の幹部会議において、少数団員となるので全分団に小型ポンプ付軽積載車を配備できないかと一案を投じたところ、後日町長より「まずは1台先行して導入してはどうか」と提案されました。この提案を受け、地元分団の中心部にある班へ打診したのですが、目論んだ班からは「軽」積載車であるために導入を断られました。しかし、「今導入しなければ!!」と

いう思いから、地元の別の班をお願いし導入を果たしました。

私には班長時代に苦い思い出があり、当時は旧式の小さなポンプで苦勞していたのですが、そんな時に隣の地区で火災が発生。水利確保一番に消火活動していたところ、後から消防本部消防車に水利を譲ってくれと言われ、上司に告げずに放水を終了したことで、上司に叱られたのです。そうした記憶を思い出し、ポンプメーカーと話したところ「今は性能が良くなり、小型ポンプでも二線放水が可能である」とのことでした。

実際に小型ポンプ付軽積載車の羽後町消防団第1号車が配備された時は、小さいながらもポンプ車同様の設備に驚かされました。そんな折、山間部で火災が発生。現場では消防本部のポンプ車1台が先着していましたが、水利の確保に苦慮していました。近くに沢がある事を地元住民から聞くと、そこへは軽自動車1台やっと通れる農道でした。この時、軽積載車により何とかたどり着くことができ、そこから二線送水により現場のポンプ車へ継ぎ、何とか大火を免れることに。これが後の幹部会議で話題に上がり、全分団への早期の最新型小型ポンプ付軽積載車配備へのきっかけの一つとなりました。

これにより、全分団がいつでも最新型の小型ポンプで二線放水ができる体制が整いましたが、当消防団ではせっかくこうした装備がある事から二線放水の技術向上に向けて二線操法を町の消防訓練大会や火災想定訓練で披露する事となりました。この二



二線操法デモンストレーション

線操法が湯沢市雄勝郡支部でも話題を呼び、昨年は秋田県消防操法大会においてデモンストレーションとして披露してほしいと県協会長から話があり、晴れの舞台で披露する事となりました。全分団より有志を募って参加、操法披露させて頂きましたが、会場からは歓声が沸きました。このように晴れの舞台で操法披露できたことは、一消防人として励みになりました。

#### 4 今後の活動について

今後は消防団員の確保と町の安全と安心に努めながら、団の課題であります消防団員確保に向けて全国的に広がりを見せている女性消防団の結成を視野に入れながら前に進みたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。



## シンフォニー（岡山県）

### 「地域を支える一員に」

総社市消防団 女性部 班長

江口 真弓

総社市は岡山県南部の中央やや西に位置する人口約68,000人のまち。人口が減少している自治体が多いなか、人口が増えている住みよいまちとして発展しています。また、かつての古代吉備の国の中心として栄えた地域で、歴史ロマンにあふれるまちです。

現在、総社市消防団は、1本部18分団77部、990人の団員で組織され、そのうち団本部に女性消防団員26人が所属しています。女性消防団員は平成18年4月から採用。平成19年8月愛称を「KibiKibiレディース」と定め、女性ならではのきめ細やかな視点を生かした活動をしようと奮闘していま



防災訓練で応急救護措置をする



出初式でも活躍

す。

手探り状態でスタートしたKibiKibiレディース。当初は「何をしたらいいの?」と人任せの状態。市の消防本部の方々におんぶに抱っこで、活動の一つずつ経験していくといった感じでした。そんな状態から約9年経った今では、メンバーみんなで協力し、「もっとこうしようよ!」と、より良い活動にしたいという積極性も出てきました。また、徐々にではありますが、KibiKibiレディースの活動が市民の皆さんに認知されてきていると実感しています。

KibiKibiレディースの主な活動は、一人暮らしの老人宅や寝たきり高齢者世帯を訪問し、防火診断や防火指導を行う活動や、応急手当指導員講習を受講して、応急手当

の知識や技術を習得し、救急救命士といっしょに講習会で市民の皆さんに普及させる活動、幼稚園や保育園を訪問し、紙芝居やエプロンシアターで子どもに火事の怖さ、避難の仕方を教える幼児防火教室など。また、市で開催されるそうじゃ吉備路マラソンや防災訓練など、さまざまな行事へも参加。救護を担当したり、防火・防災のPRをしたりしています。

そういった日々の活動を通じて、お年寄りや子どもなどに最も力を入れて伝えていることは、「自分の命は自分で守る」という「自助」の意識をもつことです。岡山県は災害が比較的少なく、防災意識が他県に比べて低いと指摘されることもありますが、近い将来、南海トラフ巨大地震が発生すると予想されています。私たちが丁寧に根気強く伝えていくことで、一人でも多くの人に命を守る行動を切実に意識してもら



放水訓練



第5回岡山県女性消防団員  
・若手消防団員研修会で寸劇を披露

えるようになればと思っています。

また、「自助」とともに大切なのが「共助」。総社市では自主防災組織に加入している人の割合が45.6%となっています。こういった自主防災組織や、私たち消防団が、「共助」の担い手。いざというとき、女性だからといって甘えるわけにはいきません。男性団員と全て同じとはいきませんが、女性団員だからこそできることがあります。これまで防災訓練で実践してきた救護や炊き出しはもちろん、他にもできることがないかKibiKibiレディースのメンバーみんなで話し合い、できることの幅を広げてみることも必要だと感じています。

「私でも何か地域の役に立つことができるのでは」と思い始めた消防団活動。この思いはKibiKibiレディースのメンバーみんなに共通する思い。今後も一人ひとりが初心を忘れることなく、メンバーみんなで力を合わせ、少しずつでも成長できれば。そして、市民みんなで支え合う総社のまちの一翼を担う「KibiKibiレディース」になりたいと思っています。

# 平成26年度少年消防クラブ指導者交流会を 開催

少年消防クラブ活性化推進会議

少年消防クラブ活性化推進会議（事務局：（公財）日本消防協会及び（一財）日本防火・防災協会）では、2月7日（土）及び8日（日）の2日間、モデル少年消防クラブの指導者及び全国少年消防クラブ交流会（徳島県）に参加予定であったクラブ指導者を対象に「少年消防クラブ指導者交流会」を東京都千代田区のルポール麹町で開催しました。

本交流会には、全国の少年消防クラブ指導者65名が参加し、語り部・かたりすとの平野啓子様による講演やクラブ活動の事例発表、防災図上訓練指導員である中村敏一講師による避難所運営訓練（HUG）の演習を行いました。

今回の交流会で得た情報や知識をそれぞれの地域に持ち帰っていただき、今後の少年消防クラブ運営や活動の一層の充実が図られることを期待しています。



秋本活性化推進会議委員長

## 【概要】

### 1. 2月7日（土）

活性化推進会議秋本委員長の主催者挨拶、消防庁地域防災室河合室長及び文部科学省学校健康教育課佐藤安全教育調査官の挨拶後、事務局から「少年消防クラブ活性化推進会議の来年度事業」と「少年消防クラブ関連事業」についての報告を行いました。その後、語り部・かたりすとの平野啓子様による講演、そして、モデルクラブを含む5クラブからの活動事例発表が行われました。



消防庁 河合地域防災室長



文部科学省 佐藤安全教育調査官



○語り部・かたりすと  
平野啓子様による講演 「語り伝える防災の心」

○活動事例発表



西町少年消防クラブ（札幌市）：屋木氏



小屋瀬少年消防クラブ（葛巻町）：中山氏



大和市少年消防団（大和市）：田中氏



上川口少年消防クラブ（黒潮町）：林氏



湧水町吉松少年消防クラブ（湧水町）：正竹氏

2. 2月8日（日）

○防災図上訓練指導員 中村敏一講師による避難所運営訓練（HUG）の演習

HUGは避難所（Hinanzyo）運営（Unei）ゲーム（Game）の頭文字を取ったもので、避難所の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。終了後は、中村講師に多くの質問が寄せられました。



# 第14回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクール審査結果

生活協同組合 全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年全国の中学生を対象とした「防火防災に関する」作文コンクールを行っています。

各都道府県の支部から、「地域を守る消防団」を作文のテーマとし、選抜された作品73点の中から、当共済会において厳正なる審査を行った結果、最優秀賞には兵庫県多可町立加美中学校3年谷尾慧奈さんの作品が選ばれました。

佳作以上の作品は、「防火防災に関する」作文コンクール入賞作品集にして、全国の消防機関等へ配布いたしました。

たくさんのご応募ありがとうございました。



## 最優秀賞 (1名)

兵庫県 多可町立加美中学校 3年 谷尾 慧奈 さん

## 優秀賞 (3名)

鳥取県 大山町立大山中学校 1年 椎木 大成 さん

福岡県 太宰府市立太宰府東中学校 3年 嶋田 雄太 さん

鹿児島県 阿久根市立大川中学校 3年 植松 蓮子 さん

## 佳作 (6名)

宮城県 登米市立中田中学校 2年 渡邊 ちなみさん

富山県 高岡市立伏木中学校 2年 早木 美流 さん

三重県 伊賀市立緑ヶ丘中学校 2年 松森 日菜 さん

広島県 広島市立長束中学校 3年 水野 佳乃 さん

広島県 広島市立安佐北中学校 2年 藤井 美夢 さん

鹿児島県 長島町立獅子島中学校 1年 竹口 そら さん



# ありがとう消防団

兵庫県 多可町立加美中学校3年 谷尾 慧奈

あの災害から三年……。私は思いもよらぬ体験をしました。

私の家族は父、母、祖母、弟そして私の五大家族です。当時父は地元の消防団に入っていました。平成二十三年九月。台風十二号が日本を襲いました。私の住んでいる地域でもだんだんと雨が強くなり、父は「集落内の見回りに行ってくるわ。」と消防団へと行ってしまいました。時間が経つにつれて強くなる雨。父が無事に帰ってくることを願いました。私はその夜自分の部屋で、台風による雨音に不安を感じつつもいつものようにベッドで眠りにつきました。夜十二時前頃のことです。

「慧奈！起きて！ここにおったら危ないから逃げるで！」

母が私を起こしました。急に起こされ何が起きているかも分からないまま、母と弟と祖母と私は車に乗り込みました。外は、ものすごい雨の音と近くの川で大きな石が転がる音が聞こえてきました。車から見える道路はまるで川のようになり、脇には山から流れてきた土砂や木がいっぱいでした。それから私の目に飛び込んできたのは、雨の中でヘルメットやカッパ、長靴を身に付けた男の人たちの姿です。このときすぐにこの人たちは消防団の方々だと分かりました。避難所に着いた私は自主避難だったということを知りました。私はそんなに危なかったのだろうか、まだ避難勧告さえ出していないのになぜだろうと思いました。その日は自主避難所で一晩を過ごしました。

家に帰った後、私は父に詳しいことを聞きました。話を聞いている中で一番印象を受けたことは消防団の方々の方です。私たちが自主避難をした理由。それは、公会堂の横のえん堤から土石流が道路へ流れ込みそうになり、その道が寸断されれば孤立状態になってしまう可能性があったため、区長さんと消防団の方々の判断で自主避難するように集落放送とサイレンで村の皆さんに呼びかけをされたそうです。なかには自分で避難できない高齢者の方がおられたので消防団の方が大切な命を守るために、寝ておられるところを起こしに行かれたそうです。しかし夜中で雨音が激しく聞こえず、ガラスを割って家の中へ入られたそうです。そしてその後、おばあちゃんは消防団の方に連れられて私たちと同じ自主避難所に避難されました。他には台風が通りすぎた後も秋雨前線の影響で水と土砂が出ている集落へ戻り、夜を徹して土木業者の方と一緒に車が通れるように土砂の撤去をされました。この話を聞いて、消防団の方々や村の役員の方々の勇敢な姿と判断が村を守る大きな力になっていたんだなと思いました。消防団の方々がおられなければ私が住んでいる集落はどうなっていたでしょう。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私も地域の防災訓練などにも積極的に参加しようと思います。

# 平成27年度消防団幹部等海外消防事情調査の実施について

(公財)日本消防協会

## 1 目的

海外の消防に関する制度、消防活動の実態を調査するとともに、各国消防の相互理解と交流を深めることにより、海外の消防に関する見聞を広め、我が国消防の発展に寄与することを目的とする。

## 2 調査期間

平成27年7月21日(火)～平成27年7月29日(水)  
7泊9日

## 3 調査地

ワルシャワ(1泊)・オポーレ(2泊)・ブリュッセル(2泊)・ルクセンブルク(2泊)

## 4 調査経費

399,800円(燃油サーチャージ等諸税込)

## 5 参加者資格

各都道府県消防協会役職員、消防団幹部等及び消防職員(司令補以上)等(消防担当者を含む)の幹部等(退職者も可)及び消防関係団体役職員で健康な方。

## 6 申込み方法及び締め切り期限

別添「消防団幹部等海外消防事情調査参加申込書」に必要事項を記入し、参加者の写真1枚(4.5

cm×3.5cm)を参加申込書に貼付し、パスポートの写し(コピー)を参加申込書に添付して下さい。

参加申込書は、各都道府県消防協会にて取りまとめ、平成27年5月21日(木)までに、日本消防協会国際部宛に送付して下さい。参加者がいない場合でも文書、メールまたは電話にて回答をお願いします。

## 7 取扱旅行者

株式会社日本クリエイティブ

総合旅行業務取扱管理者 山口 多喜廣  
〒105-0001

東京都港区虎ノ門2-9-16

日本消防会館3階

TEL: 03-3501-6311

FAX: 03-3501-6301

## 8 問い合わせ先

公益財団法人 日本消防協会

国際部 担当 福地

TEL: 03-3503-3054

FAX: 03-3503-1480

E-mail: fukuchi@nissho.or.jp



シヨバンの心臓が収められた聖十字教会  
(ポーランド)



青少年消防競技等視察(日本選手団応援)  
(ポーランド)



ギルドハウスに囲まれた美しい広場グランプラス  
(ベルギー)



独特な地形の街を見下ろすボックス砲台  
(ルクセンブルク)

## 平成27年度消防団幹部等海外消防事情調査日程表

日数	月 日 (曜日)	都市名	現地時間	交通機関	摘要
1	平成27年 7月21日 (火)	成田発 フランクフルト着 フランクフルト発 ワルシャワ着	09:55 14:35 16:25 18:05	LH711 LH1350 専用車	空路、フランクフルト経由ワルシャワへ [所要時間: 11時間40分/時差-7時間]  空路、ワルシャワへ [所要時間: 1時間40分/時差なし] 到着後、ホテルへ [ワルシャワ ヒルトンワルシャワ泊]
2	7月22日 (水)	ワルシャワ ワルシャワ発 オポーレ着	08:30 12:30 18:00	専用車	ワルシャワ視察(3H)、 王宮広場、旧市街等 昼食の後、オポーレへ(320km、約5H) 途中、消防視察(約1~2時間) オポーレ到着 [オポーレ メキュールオポーレ泊]
3	7月23日 (木)	オポーレ	08:00 午後	専用車	青少年消防競技等視察応援(13:00まで) ラガーオリンピック視察及び市内視察 [オポーレ メキュールオポーレ泊]
4	7月24日 (金)	オポーレ発 クラクフ発 フランクフルト着 フランクフルト発 ブリュッセル着	午前 14:40 16:20 17:25 18:20	専用車 LH1367 LH1018 専用車	クラクフへ移動(190km、約3H) 途中、アウシュビッツ見学 空路、フランクフルト経由ブリュッセルへ  空路、ブリュッセルへ 到着後、ホテルへ [ブリュッセル シェラトンブリュッセル泊]
5	7月25日 (土)	ブリュッセル発 ブリュージュ着 ブリュージュ発 ブリュッセル着	09:00 午後 17:00	専用車 専用車	世界遺産ブルーージュ歴史地区日帰り視察 聖血礼拝堂、運河、聖母教会、ベギン修道院等 消防視察 [ブリュッセル シェラトンブリュッセル泊]
6	7月26日 (日)	ブリュッセル発 ルクセンブルク着	午前 午後 17:00	専用車	ブリュッセル視察 大聖堂、小便小僧、コングレ記念塔等 ルクセンブルクへ(約3H/約192km) [ルクセンブルク メキュールグランド ホテルアルファ泊]
7	7月27日 (月)	ルクセンブルク	09:00 13:00	専用車	ルクセンブルク消防視察 市内視察 ノートルダム寺院、古い街並みと要塞群等 [ルクセンブルク メキュールグランド ホテルアルファ泊]
8	7月28日 (火)	ルクセンブルク発 フランクフルト着  フランクフルト発	08:30 午後 16:00 18:05	専用車  LH716	フランクフルトへ [約3時間/約232km] 昼食後、フランクフルト視察 ゲーテハウス、市庁舎レーマー、大聖堂等 空港着 空路、羽田へ [所要時間: 11時間5分/時差+7時間] [機中泊]
9	7月29日 (水)	羽田着	12:15		到着後、解散

LH: ルフトハンザ航空

# 都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議の開催と第22回全国女性消防操法大会の抽選会を実施

(公財)日本消防協会・(生協)全日本消防人共済会

平成27年3月3日(火)、午後1時30分から日本消防会館5階大会議室において、都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議が開催されました。

会議は、秋本会長のあいさつのあと、総務省消防庁野村総務課長より、平成27年度消防庁予算(案)の概要、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する消防庁の取組み等について説明がありました。



都道府県消防協会事務局長・共済会支部事務長会議



第22回全国女性消防操法大会出場順抽選会

続いて各部から平成27年度事業案の説明がありました。

会議終了後、平成27年度に実施されます第22回全国女性消防操法大会の出場順位の抽選会が行われました。

抽選結果は以下のとおりです。

## 第22回全国女性消防操法大会出場順

出場順	コース	
	第1コース (本部席側)	第2コース (応援席側)
1	愛知県	沖縄県
2	神奈川県	高知県
3	石川県	長崎県
4	秋田県	佐賀県
5	茨城県	鳥取県
6	島根県	広島県
7	群馬県	京都府
8	和歌山県	新潟県
9	三重県	長野県
10	山口県	滋賀県
11	東京都	青森県
12	愛媛県	岡山県
13	奈良県	富山県
14	大阪府	福岡県
15	埼玉県	北海道
16	福島県	鹿児島県
17	熊本県	岩手県
18	宮崎県	岐阜県
19	静岡県	山形県
20	山梨県	宮城県
21	兵庫県	福井県
22	香川県	徳島県
23	千葉県	大分県
24	栃木県	

# 「消防団員入団促進キャンペーン」の実施

消防庁 地域防災室

毎年3月末から4月にかけて、消防団員の退団が多くなる傾向にあります。このことから、消防庁では、地域防災力の向上を図るために、退団時期の前の1月から3月を「消防団員入団促進キャンペーン」の期間として位置付け、消防団員募集についての広報を全国的に展開しています。

平成25年12月に成立した「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」では、国及び地方公共団体は消防団への積極的な加入が促進されるよう、必要な措置を講ずるものと規定されており、一年を通じて各種取組を行っているところですが、このキャンペーン期間中は特に力を入れて入団促進に取り組んでいます。

キャンペーン期間中には、被用者や女性、大学生等の幅広い層への入団促進などに取り組んでいただくよう各都道府県知事及び各市町村長（指定

都市市長を除く市町村長へは都道府県知事を經由）に対し、消防庁長官から「消防団員入団促進キャンペーン」に基づく広報の推進について（通知）（平成26年12月19日付け消防地第173号）を発出しました。

本通知では、広報誌、ホームページ、ケーブルテレビ等のあらゆる広報媒体を通じて、効果的な広報を推進していただくとともに、キャンペーン期間中に開催される各種イベント等において、消防庁作成の「消防団員入団促進ポスター」、「消防団員入団促進リーフレット」等を活用した消防団員募集の広報を推進していただくよう依頼しました。

これからも地域の幅広い層から職業、年齢、性別を問わず、多くの方々が消防団に入団されることを期待しています。



消防団員入団促進ポスター



リーフレット（表裏）

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部 地域防災室 消防団係 山下  
TEL：03-5253-7561

# 一般公開のお知らせ

消防庁 消防大学校・消防研究センター  
日本消防検定協会  
(一財) 消防科学総合センター

消防大学校・消防研究センター、日本消防検定協会及び一般財団法人消防科学総合センターでは、平成27年度の科学技術週間にあたり、一般の方々に当敷地内において試験研究施設を公開するとともに、消防用機械器具・消防防災の科学技術に関する研究の展示、実演等を下記のとおり行いますので、皆様お誘い合わせの上、ご来場くださいますようお願い申し上げます。

記

## 1 日時

平成27年4月17日(金)  
午前10時から午後4時まで 入場無料

## 2 場所

消防大学校・消防研究センター  
(東京都調布市深大寺東町4-35-3)  
日本消防検定協会  
(東京都調布市深大寺東町4-35-16)  
※(同一敷地内にあります。)

## 3 公開内容

【消防大学校・消防研究センター】

石油タンク火災の泡消火実験、大規模災害時の対応支援情報システム、軽油の燃焼実験、可燃性液体火災の消火実験、原因調査室の調査業務の紹介、津波被害現場用の消防車両の開発、太陽光発電システム火災に関連した研究の紹介、および消防車両の展示等

【日本消防検定協会】

消火器の操作体験、エアゾール式簡易消火具による天ぶら油火災の消火実演、消防用機械器具等の展示と説明等

【消防科学総合センター】

消防防災GIS、消防防災博物館、石油コンビナート防災アセスメント、消防力適正配置調査、災害写真データベース等業務内容の紹介、消防支援業務、スマートフォンを使用した災害応急活動支援システム「多助」

## 4 交通機関

- (1) JR中央線吉祥寺駅南口下車、「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行きバス(6番乗り場)で「消防大学前」下車
- (2) JR中央線三鷹駅南口下車、「野ヶ谷」行きバス(8番乗り場)で「消防大学前」下車
- (3) 京王線調布駅北口下車、「杏林大学病院」行きバス(14番乗り場)で「東町3丁目」下車、徒歩5分

平成26年度一般公開の様子



石油タンク火災の泡消火技術



エアゾール式簡易消火具による消火体験



消防防災GIS

## 5 問い合わせ先

■消防研究センター 研究企画室

電話 0422-44-8331(代表)  
ホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>

■日本消防検定協会 企画研究部情報管理課

電話 0422-44-7471(代表)  
ホームページ <http://www.jfeii.or.jp/>

■一般財団法人 消防科学総合センター 総務課

電話 0422-49-1113(代表)  
ホームページ <http://www.isad.or.jp/>

# 全国消防操法大会出場にあたり甲賀市消防団 PRカーを制作

甲賀市消防団

甲賀市は、滋賀県の南部、大阪名古屋の中間に位置し、近世においては東海道の宿場町として栄え、現在は市内に3箇所のインターチェンジが設けられています。

また、甲賀流忍者や日本六古窯の一つに数えられるたぬきで有名な信楽焼など多くの観光資源を有しています。

甲賀市は、平成16年10月に5町の合併により誕生しました。甲賀市消防団は、旧町ごとに5つの方面隊と女性消防隊の6隊で組織し、平成27年1月末時点での団員数は1,178人、甲南方面隊は178人となっています。

平成26年度の滋賀県消防操法訓練大会「小型ポンプの部」には、甲賀市消防団を代表して甲南方面隊が出場し、見事に優勝を勝ち取り全国消防操法大会への切符を手にすることができました。

この全国消防操法大会への出場にあたり、甲南方面隊 隊長の増田嘉彦さんが、自分の所有するバスに「がんばれ!! 滋賀・甲賀市消防団 日本全国消防団員募集中」とのラッピングを施しました。

そして、このバスに出場選手が乗り込み、全国消防操法大会へと向かいました。道中の名神高速サービスエリアでは、そのラッピングを見かけた方から、「消防団員の方ですか? 頑張ってください。」と声をかけていただき大変うれしく思いました。

全国大会では、優良賞隊の表彰を受けるとともに、指揮者が優秀選手賞に選ばれるという快挙を成し遂げてくれました。これは、指揮者の気力・技術によるものですが、加えて選手が一丸となって戦いに臨んだ結果だと思えます。

これからも、地域の皆様の安全な生活を支えるため、日々精進して行きたいと改めて感じる大会となりました。

「めざせ日本一!」団員の団結力と、地域の皆さんの安心感、信頼感日本一の消防団を目指し、これからも日々消防団活動に励んでいきます。



増田隊長



うちの

# 名物団員



茨城県



桜川市消防団 本部員

小林 源洋

石材業が盛んなまち茨城県桜川市において、小林本部員は石材業を経営するかたわら、地元で野球クラブへ所属し、スポーツ少年団では指導者、体育協会では審判員として活躍。学生時代から野球に没頭していた彼は、息子のスポーツ少年団への入団が契機となり、今では野球をとおして子供とふれあうことが彼の楽しみとなっています。元来子供が大好きで、小中学校等でも様々な役員を務めており教育にも非常に熱心です。

消防団員として子供たちへの防災教育にも熱心に取り組み、本人は「子供たちが安全・安心に暮らせるまちにするため日々消防団活動に励んでいる。子供たちが将来消防団へ入団してくれるよう、手本となる存在でありたい。」と話し、将来のまちの消防力を育成しています。



岡山県



総社市消防団 女性部 団員

光畑 明美

総社市消防団の名物女性団員、光畑明美さんを紹介します。光畑さんは、小柄な体にみなぎるパワーを秘めたパワフルウーマン。石を持ち上げて力比べをする、総社の夏の恒例行事「力石総社」で、優勝12回、最高48貫（約180キログラム）の石を持ち上げた記録の持ち主です。16回目の出場となった昨年の力石総社では、26貫を持ち上げたものの、惜しくも入賞を逃してしまいました。しかし、負けず嫌いの光畑さんは、

「今年こそは！」とリベンジを誓っています。

体育教師の光畑さん。毎日の運動量と比例し、食べる・飲む量もかなりのものです。真面目でスポーツウーマンらしいさっぱりとした性格で、女性団員みんなの人気者。その抜群の運動神経とパワーで女性団員をグイグイ引っ張ってくれる頼もしい存在です。

群馬県

小松団員は、東京の大学を卒業後、興味があった林業に従事するため村にやってきたIターン者です。入団当初から地域や消防団の活動に積極的に取り組んでおり、住民から厚い信頼を得ています。また同じくIターンの女性との結婚が決まっています。上野村は人口の17%がIターン者であり、小松団員と同じIターン者が消防団を支えています。

上野村消防団 第六分団 団員

小松 純一







湯沢市消防団 皆瀬地域本部 団員

堀江 由美

小野小町発祥の地と言われるここ湯沢市には、小野小町に扮した7人の若い女性たちが主役の華やかなお祭り、「小町祭り」があります。その小町娘の一人である、かわいい♥女性消防団員、堀江由美さんです。

平成21年4月、湯沢市初の女性消防団員として入団しました。小町娘として地域の活性化に尽力する一方で、団活動にも積極的に参加し、その温厚な人柄で周囲との調和を上手に図ってくれています。女性消防団の活動の幅を広げていく中で欠かせない人物であり、今後も地域の安心と安全のために、ますますの活躍を期待しています。



吉田町消防団 第一分団 団員

鈴木 啓祐

鈴木団員は、吉田町の住吉区を拠点とする第一分団に所属しているほか、式典等ではラッパ隊員としても活躍しています。

また、日本プロフェッショナルボディーボーディング連盟公認のプロで、全国各地で開かれた2014シーズンのプロツアーでは、ランキング2位を獲得しました。トップレベルで活躍している鈴木団員は、子供たちにボディーボードの楽しさを知ってもらおうと、ボディーボード教室を開催する等、様々な活動をしています

今後も、「消防団員として」「プロのボディーボーダーとして」活躍が期待されます。



南知多町消防団 副団長

滝本 光信

南知多町から副団長、滝本光信さんを紹介します。

滝本さんは建設業を経営され、災害時には応急復旧協力事業者として町防災対策に協力頂くとともに、社員に町消防団員を採用され町の就業状況向上にも

努めています。一方、少子高齢化の進む地域の祭礼で、自ら考えた龍踊で活性化に努め、伝統ある鯛祭りでは、豊浜地区団員130名を指揮し、警備の陣頭に立ち、頑張っています。また、消防協会から交付された消防団防災学習等車両を用いて、団員の技術向上に努めています。

# 消防団の広場

静岡県

## 吉田町の安全安心のために

吉田町消防団 団長

安田 新吾



吉田町は、総面積二千八十四ヘクタール、総人口が約三万人の町で、静岡県の中部地区に位置し、北西から牧之原台地の突端が突出するほかは平坦な地形となっております。

町の東側には、南アルプスの間ノ岳を源とする、延長百六十八キロメートルの大井川が流れており、大井川の豊富な伏流水に恵まれ、鰻の養殖が栄えております。

町南側には駿河湾が臨まれます。

駿河湾は、水深二千五百メートルと日本一深い湾で、暖かい黒潮と冷たい親潮が交じり合うために、多種の外洋性の魚が入り込み、約千種類もの魚介類が生息しているといわれております。当町の漁港では、富士山や南アルプスのミネラル豊富な雪解け水が流れ込む駿河湾が育てた良質なプラン



クトンを餌とする、良質なシラスが水揚げされています。

吉田町消防団は、本部と、4つの分団、5つの班の機能別団員で、消防指令車一台、消防ポンプ車五台、小型動力ポンプ積載車四台で編成されており、条例定数二百十名のところ、現在、百六十二名の消防団員で構成されています。

吉田町消防団は、火災時における消火活動のみならず、台風や大雨等風水害の対応、消火栓器具格納箱や水門の管理、防火啓発活動等、幅広く活動しています。

また、防災訓練では、可搬ポンプの取扱いの指導、地区の祭典では、防犯の腕章をつけパトロールを実施する等、様々なところで活躍しています。

今後も、郷土愛護の精神のもと、各種訓練に励み、地域密着型の消防団として、各団体と連携し、地域の安全安心の担い手として、地域の皆様に信頼される吉田町消防団を目指します。



平成26年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

## 4月の日本消防協会関係行事

4月26日（日）～30日（木）

第7回CTIF女性消防委員会会議（スウェーデン）

## 編集後記

早いもので、平成26年度の最後となる日本消防3月号の発刊がやってきました。

振り返れば、昨年の4月に日本消防の編集を仰せつかり、あっという間の一年でした。26年度はその編集において「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨を、全面に押し出すことを目標に定めました。

この法律の制定によって消防団への関心が高まっている中で、具体的に、また、如何にして日本消防へ反映させられるのか、手探りによる至らない編集の日々であったと思います。

そんな中、消防団の皆様からのご寄稿には、地域防災の中核的な役割を果たして行く旨の力強い記載等が多数ありました。結果的にはこの法律の趣旨を理解した消防団の皆様からの後押しのお蔭で、何とか無事に発刊を果たしてこられたものと実感しております。皆様の声を「日本消防」で届けることで消防団活動の更なる充実への一助となれば、と切に願っております。

ご寄稿いただきました多くの方々に感謝申し上げます。

2年間の日消勤務でお世話をいただきました方々との別れは寂しい限りではありますが、東京での数々の貴重な体験を土産として持ち帰り、今後とも消防団とともに地域防災力の強化に努めて行きたいと思っております。皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(T.S)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料（送料込） 2,448円

（問合せ先） 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十八巻第三号  
平成二十七年三月五日印刷  
平成二十七年三月十日発行

編集人 生嶋 文昭

発行所 (財)日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目九十六

電話 〇三(3503)一四八一(代)

印刷所

東京都文京区湯島三丁目二十一十二

日本印刷株式会社

電話(333)六九七一(代)

# 消防団員・消防職員の皆様の火災共済



まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

## 1500倍補償

### B型火災共済



毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）+配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円（ゆうちょ  
銀行は五千円）から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金（5種類）又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金（脱退一時金）  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00